

令和6年度 静岡県への移住に関する調査

<調査結果>

○ 調査概要		P 1
○ 調査結果概要(本調査)		P 2
○ 調査項目フローチャート		P 3 - 4
○ 調査項目一覧		P 5 - 7
○ スクリーニング調査結果 全回答者 属性		P 8 - 12
○ スクリーニング調査結果 本調査対象者抽出 属性		P 13 - 17
○ 本調査結果		P 18 - 37

調査概要

調査目的	静岡県への移住者、移住検討者等に対し、移住決定の決め手や検討にあたって利用した支援策等の調査・分析を行い、調査結果は効果的な移住促進施策の検討に活用する。							
調査手法	インターネット定量調査（調査会社アンケートモニター） ※従来調査では、県や市町の移住相談窓口利用者及びメールアドレス登録者を対象にインターネットアンケートを実施していたが、本調査では、移住相談窓口を利用しなかった方なども含めた幅広い者から傾向や意見などを集約するため、調査会社のモニターによるインターネットアンケートを実施した。							
調査エリア	全国47都道府県							
調査対象者	性別:男女 年齢:20歳以上							
調査方法・回収数	・スクリーニングにより、「本調査」の対象とする「静岡県移住者及び静岡県移住検討者(断念者)」を抽出 ＜スクリーニング調査＞							
		全 体	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	回答数	40,664	1,688	4,100	8,008	12,741	9,474	4,653
調査方法・回収数	・スクリーニング調査から抽出した「静岡県移住者及び静岡県移住検討者(断念者)」を対象に「本調査」を実施 ＜本調査＞							
		全 体	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	移住者	273	20	44	57	71	61	20
	検討者	185	12	35	40	52	40	6
	断念者	59	0	4	16	16	15	8
	合計	517	32	83	113	139	116	34
調査実施期間	2024年8月9日(金)～ 2024年8月20日(火)							
本調査対象者条件	静岡県移住者 及び 静岡県移住検討者(断念者も含む) 517名							

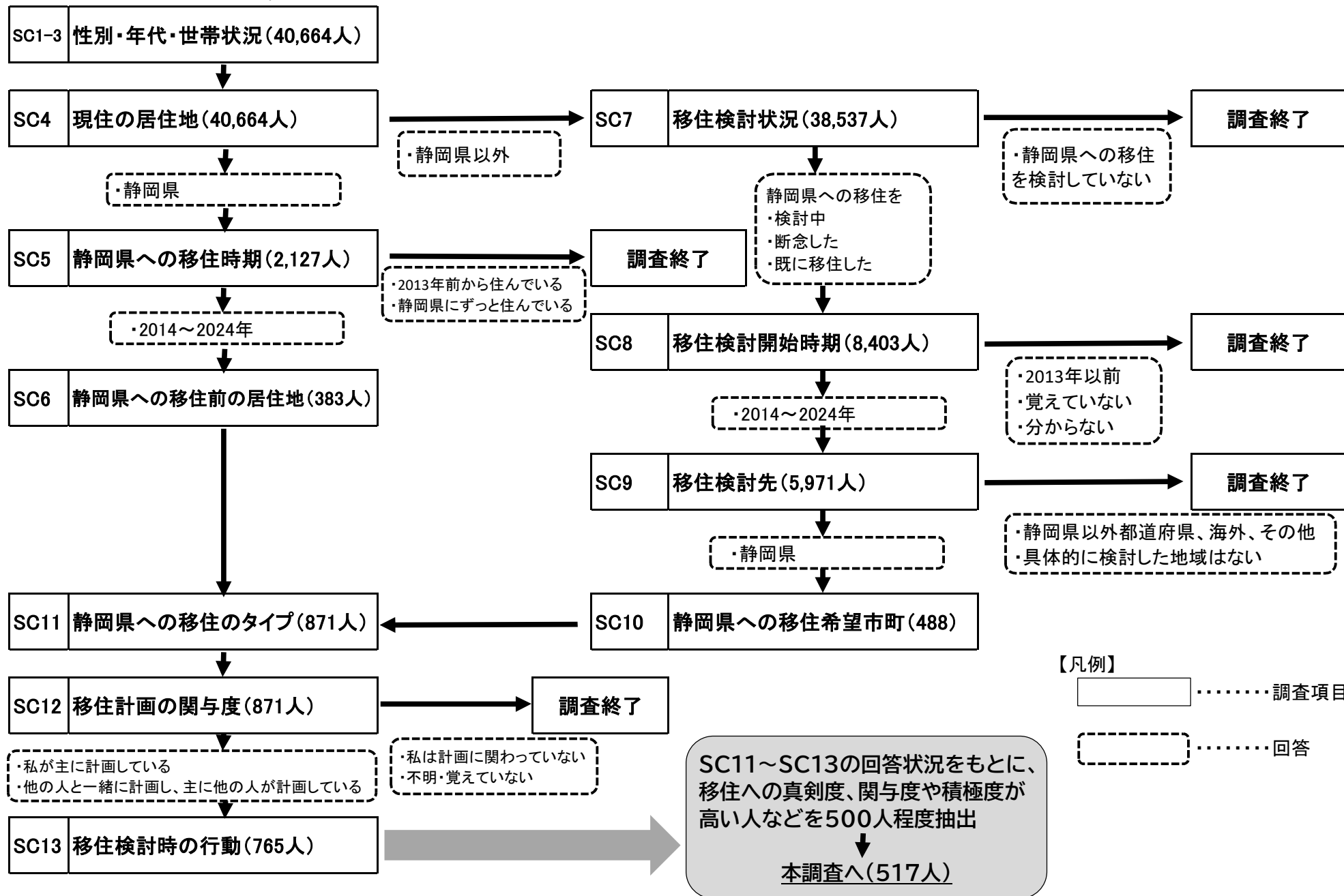
※各調査項目について、その他や無回答などを割愛しているため、合計が合わない場合がある。

※各調査項目について、四捨五入の関係で合計が合わない場合や端数をその他等の項目で調整している場合がある。

- **SC6:静岡県への移住前の居住地**
 - ・関東エリアで60.4%、中部エリアで15.4%を占め、都道府県別でも東京都が26.4%、神奈川県が19.8%、愛知県12.8%となり、3都県で約6割を占めている。
- **Q5:移住の動機**
 - ・【移住者】では、「仕事(退職・転職・就職)」、「ライフステージの変化(結婚、出産、育児、介護など)」が上位となり、【検討者】では、「自然豊かな環境」、「住まい(住環境を変えたい)」、「地方・田舎の暮らしに関心」が上位となっている。なお、「新型コロナウイルス」も動機の1つとして選択されているが、上位項目には入らなかった。
- **Q8:静岡県に興味を持ったきっかけ**
 - ・【移住者】では「地縁・血縁」が最も高く、【検討者】では、「海が近い」、「富士山が見える」、「観光、出張で訪れた」、「温泉が身近にある」、「首都圏に近い」が上位項目となっている。
- **Q9:静岡県の魅力**
 - ・【移住者】、【検討者】の差はなく、いずれも「自然環境」、「食べ物がおいしい」、「温暖な気候」、「首都圏に近い」、「富士山が見える」が上位項目となっている。
- **Q13:求める支援策**
 - ・「住宅に関する情報提供」、「住宅の購入・改修にかかる費用の補助」、「移住に伴う転居費用等の補助」が上位となっている。
- **Q17:移住の決め手**
 - ・「温暖な気候」、「自分や配偶者、パートナー、知人にゆかりのある地域がある」、「静岡県での仕事(就職)が決まった」、「静岡県への転勤が決まった」、「東京圏に近い」が上位となっている。また、子育て世代(20-40代)では、「静岡県での仕事(就職)が決まった」が最も高くなっている。
- **Q18:静岡県への移住にあたって利用した制度**
 - ・選択肢「1つもない」を除くと、「ハローワーク」、「移住相談窓口」、「市町HP」が上位となっている。なお、「転勤」による移住者も多いことから、支援制度を利用しない者が多くなったと推測される。

- ◆ 静岡県への移住は、東京圏や中京圏からの移住者が多く、仕事(退職・就職・転職)を動機とするものや、豊かな自然環境を求めるもののほか、ライフステージの変化や住環境を変えることを契機に移住を検討している。
- ◆ 【移住者】では「仕事」や「ライフステージの変化」を契機に移住を検討した者が多く、【検討者】では「自然豊かな環境」や「住環境」の変化を求めて移住を検討している。
- ◆ 移住の決め手では、仕事関係、自然環境、ゆかりのある地域や東京圏との近接性が重視されている。また、子育て世代(20代-40代)では、仕事関係を最も重視している、一方、その他の年代では、年代が高くなるにつれ、自然環境などを重視する傾向がある。
- ◆ 【移住者】が利用した制度は、仕事や移住に関する「相談窓口」が上位となっている。【検討者】は、「住宅」関連の支援も求めている。
- ◆ 【移住者】は、「仕事関係(就職・転職・転勤)」を移住の動機・決め手として重視していたのに対し、【検討者】は、「自然豊かな環境」や「住環境」の変化を求めて移住先を検討している傾向にある。移住を検討している者が、実際に移住に至るには、移住先での仕事の確保が最重要となるため、住宅に関する支援や移住相談のほか、「仕事に関する支援策」が効果的と考えられる。

<スクリーニング調査> 40,664人

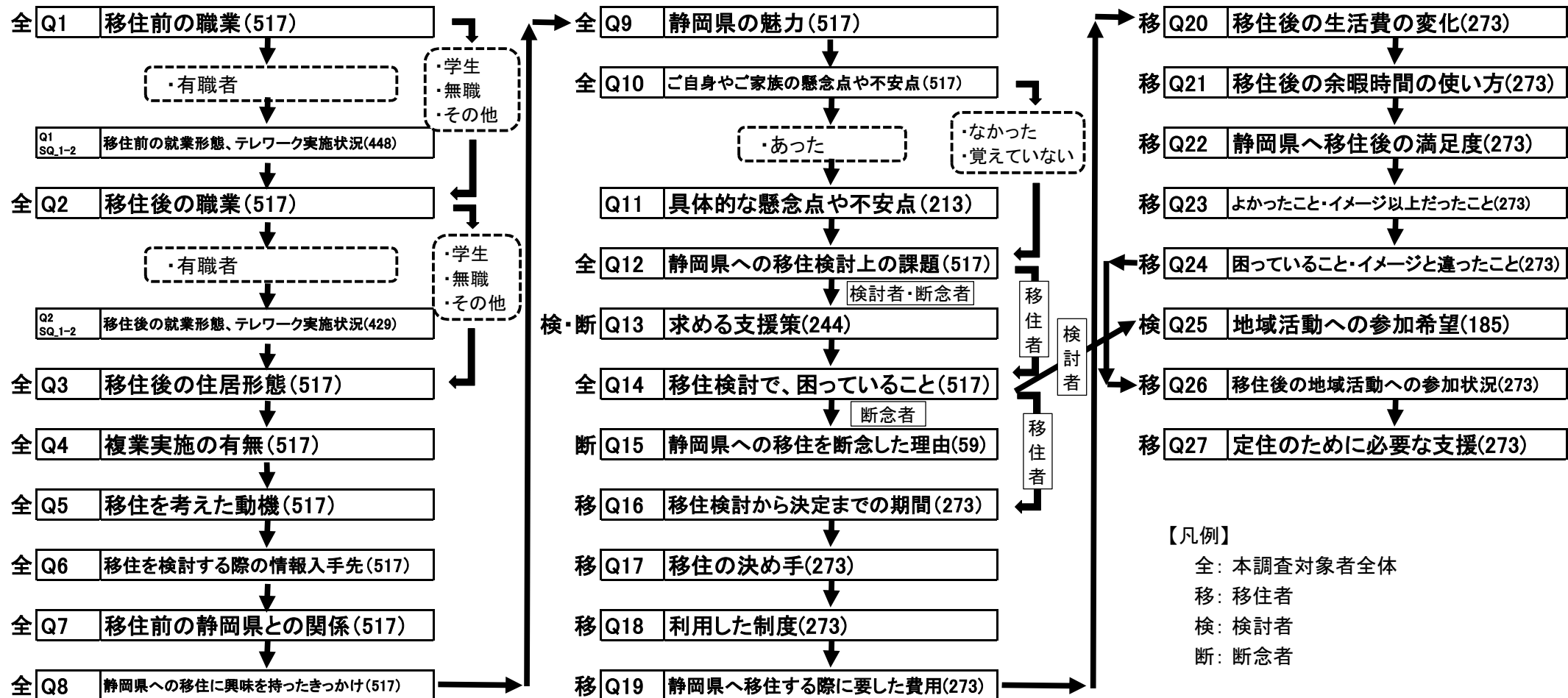


<本調査> 517人

・スクリーニング調査により、本調査の対象となる、「静岡県への移住者、検討者、断念者」を500人程度を抽出して、本調査を実施

【本調査対象者詳細】

- ・移住者(273人): 静岡県へ2014～2024年に移住した者
- ・検討者(185人): 2014～2024年に移住検討を開始し、調査時点で静岡県への移住を検討している者、静岡県を移住検討先の1つとしている者
- ・断念者(59人): 2014～2024年に移住検討を開始し、移住自体を断念した者、又は、静岡県への移住を断念し、他県へ移住した者



<スクリーニング調査>

番号	質問	回答者
SC1	あなたの性別をお知らせください。（SA）	全体
SC2	あなたの年代を教えてください。（SA）	全体
SC3	現在の世帯構成を教えてください。（SA）	全体
SC4	あなたのお住まい（都道府県）をお知らせください。（SA）	全体
SC5	あなたはいつから静岡県にお住まいになっていますか。（SA）	静岡県居住者
SC6	移住（転居）前の居住地（都道府県）を教えてください。（SA）	10年以内に静岡県へ移住した者
SC7	過去10年以内に、それまで住んでいた都道府県を離れ、他の都道府県への「移住（転居）」を検討したことがありますか。（SA）	静岡県居住者以外
SC8	移住（転居）の検討を開始した時期は、今からどのくらい前でしたか。（SA）	静岡県居住者以外の移住検討者
SC9	移住（転居）を検討している（していた）地域（都道府県）を教えてください。（MA）	静岡県居住者以外で10年以内に移住検討を開始した者
SC10	静岡県への移住（転居）を検討している時に、移住（転居）予定先として静岡県のどこの市区町を希望している（した）か、教えてください。（SA）	静岡県居住者以外で10年以内に静岡県への移住検討を開始した者
SC11	静岡県への移住（転居）は、下記のどちらのタイプに該当しますか。（SA）	・10年以内に静岡県へ移住した者 ・静岡県居住者以外で10年以内に静岡県への移住検討を開始した者
SC12	移住（転居）を検討しているときに、あなたはどれくらいその計画に関わったか教えてください。（SA）	・10年以内に静岡県へ移住した者 ・静岡県居住者以外で10年以内に静岡県への移住検討を開始した者
SC13	移住（転居）を検討しているときに、どのような行動をしたか教えてください。（MA）	・10年以内に静岡県へ移住した者 ・静岡県居住者以外で10年以内に静岡県への移住検討を開始した者 (SC12「私は計画に関わっていない、不明・覚えていない」回答者を除く)

<本調査>

番号	質問	回答者
Q1	移住前の、あなたの世帯で主たる収入を得ている方のご職業を教えてください。（SA）	本調査対象者全体
Q1SQ_1	移住前の、あなたの世帯で主たる収入を得ている方の就業形態を教えてください。（SA）	Q1「有職者」
Q1SQ_2	移住前に、あなたの世帯で主たる収入を得ている方はテレワークをしていますか。 実施頻度を教えてください。（SA）	Q1「有職者」
Q2	移住後の、あなたの世帯で主たる収入を得ている方のご職業を教えてください。（SA）	本調査対象者全体
Q2SQ_1	移住後の、あなたの世帯で主たる収入を得ている方の就業形態を教えてください。（SA）	Q2「有職者」
Q2SQ_2	移住後に、あなたの世帯で主たる収入を得ている方はテレワークをしていますか。 実施頻度を教えてください。（SA）	Q2「有職者」
Q3	移住後の住居形態を教えてください。（SA）	本調査対象者全体
Q4	あなたの世帯で主たる収入を得ている方は、複業（副業）を実施していますか。（SA）	本調査対象者全体
Q5	移住を考えた動機は、どのようなことですか。（MA）	本調査対象者全体
Q6	移住先を検討する際に、どのようなところから情報を集めましたか。（MA）※上位3つまで	本調査対象者全体
Q7	移住を検討（決定）する前のあなたと静岡県との関係性について、当てはまるものを全て教えてください。（MA）	本調査対象者全体
Q8	静岡県への移住に興味を持ったきっかけは、どのようなことですか。（MA）	本調査対象者全体
Q9	他都道府県と比較した際の静岡県の魅力を教えてください。（MA）	本調査対象者全体
Q10	静岡県へ移住を検討する段階で、あなたやご家族に懸念点や不安な点があります（した）か。（SA）	本調査対象者全体
Q11	先ほど、懸念点や不安な点がある（あった）とお答えいただきましたが、具体的な内容をお知らせください。（FA）	Q10「ある・あった」回答者
Q12	静岡県への移住の検討を進める上で、課題となっている（いた）ことを最大3つまで教えてください。（MA）	本調査対象者全体
Q13	どのような支援があると、静岡県への移住の可能性が高まりますか。（MA）	検討者・断念者
Q14	移住の検討時において、困っている（いた）ことはありますか。（FA）	本調査対象者全体

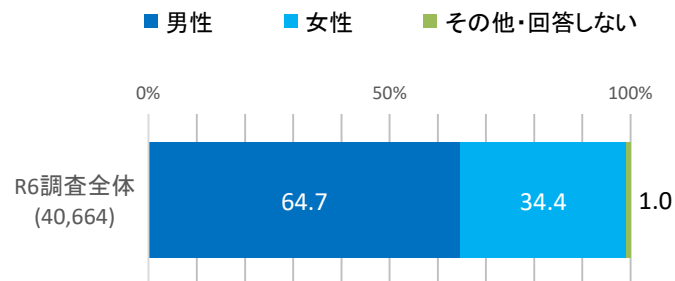
<本調査>

番号	質問	回答者
Q15	最終的に、静岡県へ移住することを断念した理由は何でしたか。 差し支えない範囲で結構ですのでお答えください。（FA）	断念者
Q16	移住を検討し始めてから決定するまでに、どのくらいの期間を要しましたか。（SA）	移住者
Q17	静岡県への移住の決め手について、上位3つを教えてください。（MA）	移住者
Q18	静岡県への移住にあたり、利用した制度があれば、すべて教えてください。（MA）	移住者
Q19	静岡県へ移住する際に要した費用はどのくらいですか。 （移住検討～移住先への引っ越しまで（自家用車・住宅関連費用は除く））（SA）	移住者
Q20_1	静岡県へ移住して、家計収入・家計支出は変わりましたか。／家計収入（SA）	移住者
Q20_2	静岡県へ移住して、家計収入・家計支出は変わりましたか。／家計支出（SA）	移住者
Q20_3	静岡県へ移住して、家計収入・家計支出は変わりましたか。／家計収支（SA） ※上記Q20_1～2の、収入と支出の増減を合計した結果をお答えください。	移住者
Q21	静岡県へ移住した後、余暇時間の使い方について、あてはまるものすべて教えてください。（MA）	移住者
Q22	静岡県での移住後の生活について、満足度を教えてください。（SA）	移住者
Q23	静岡県へ移住して、良かったことや、移住前のイメージ以上だったことはありますか。（SA） ある方は、具体的にご記入ください。（FA）	移住者
Q24	静岡県へ移住して、困っていることや、移住前のイメージと違ったことはありますか。（SA） ある方は、具体的にご記入ください。（FA）	移住者
Q25	移住後に自治会やお祭りの運営などの地域活動に参加したいですか。（SA）	検討者
Q26	自治会やお祭りの運営などの地域活動への参加状況について教えてください。（SA）	移住者
Q27	静岡県への移住後の生活について、定住のためにはどのような支援が必要だと思いますか。 具体的にご記入ください。（FA）	移住者

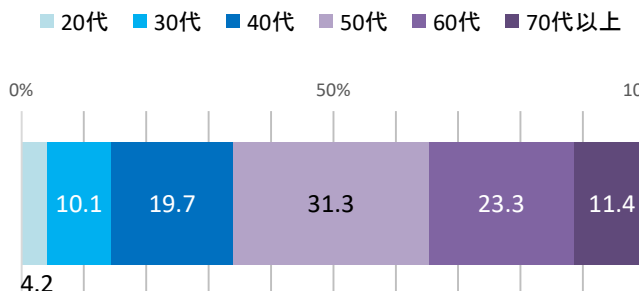
スクリーニング調査結果 全回答者 属性 ①

- 性別は、「男性」が64.7%で、「女性」34.4%よりも30.3%多くの方が回答している。
- 年代は、「20代-40代」の子育て世代は、34.0%回答している。
- 世帯構成は、「単身」、「夫婦のみ」及び「二世帯(夫婦と子)」で83.8%を占めている。
- 現在の居住地では、地域別に比較すると、「関東」40.5%、「近畿」16.6%、「中部」13.5%が上位となっている。

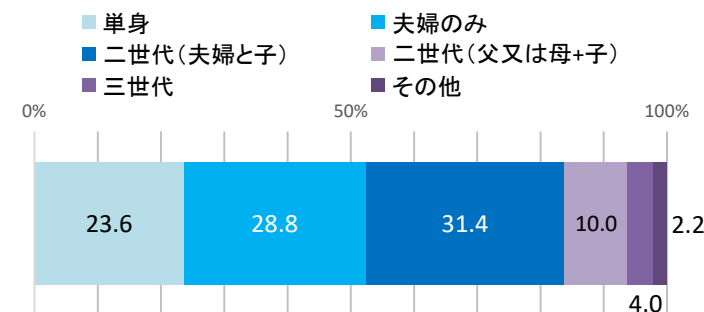
SC1 性別【全体】



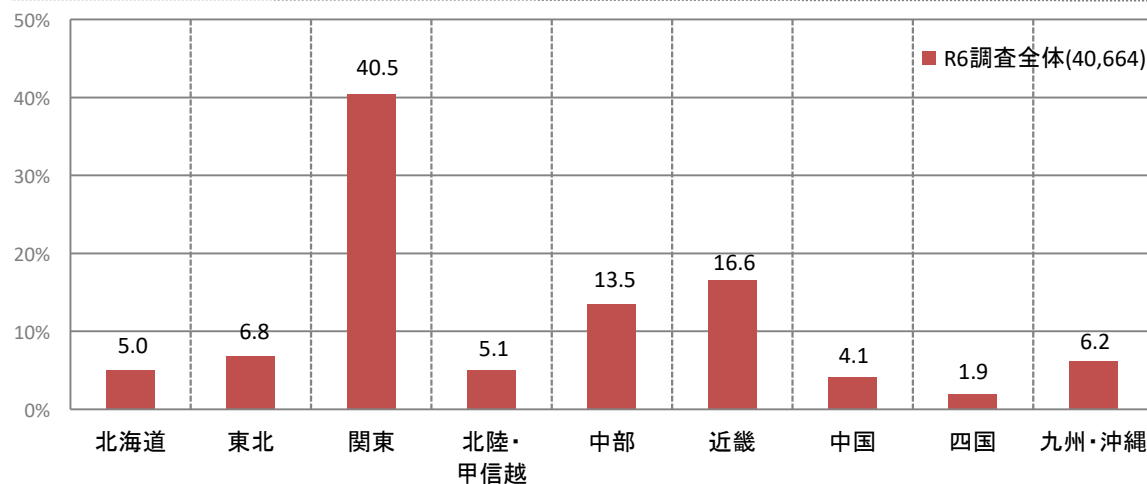
SC2 年代【全体】



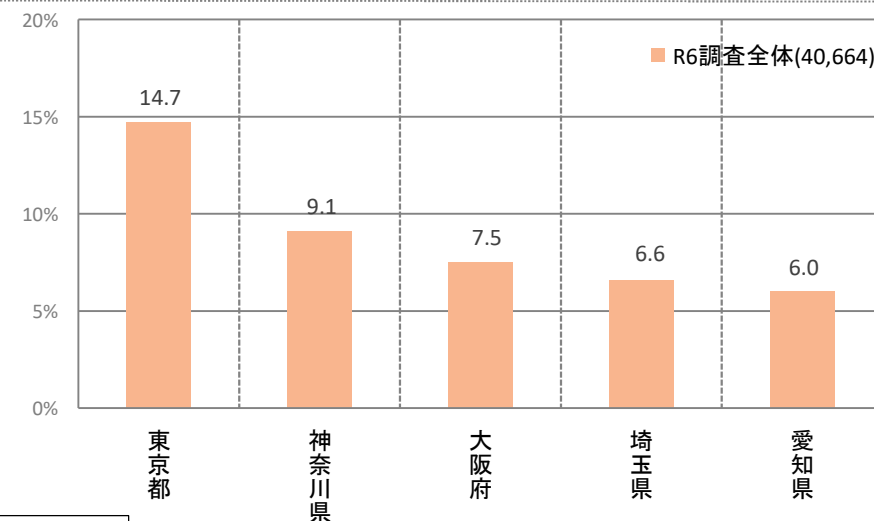
SC3 世帯構成【全体】



SC4 現住の居住地(地方別)【全体】



<現住の居住地Top5>



※各エリアに含まれる都道府県(以下、同様)

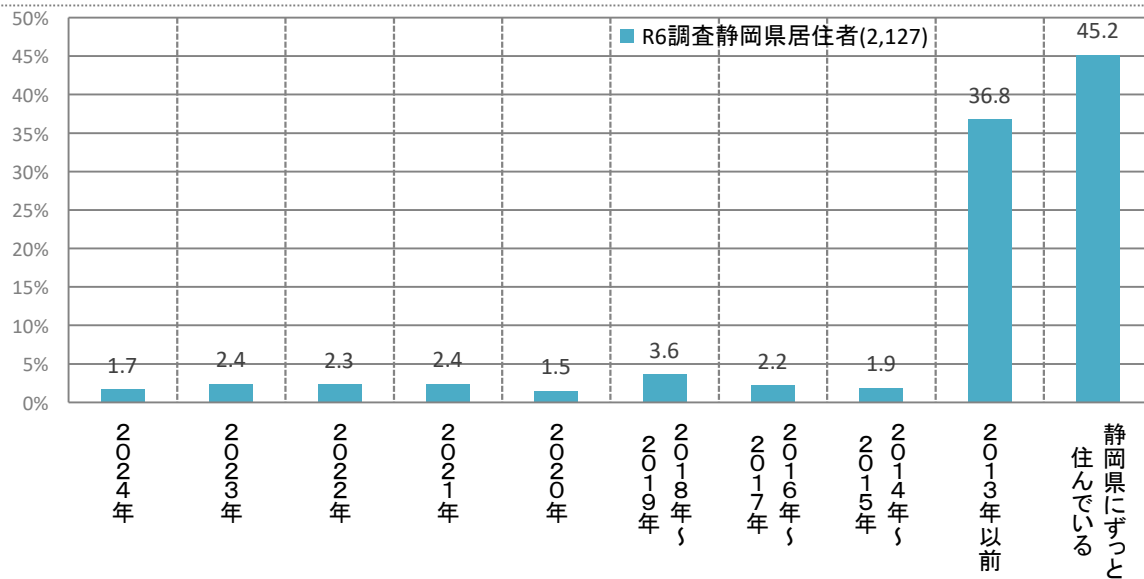
東北: 青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 / 関東: 茨城・栃木・群馬・埼玉・東京・神奈川・千葉

北陸・甲信越: 新潟・富山・石川・福井・山梨・長野 / 中部: 岐阜・静岡・愛知・三重 / 近畿: 滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山

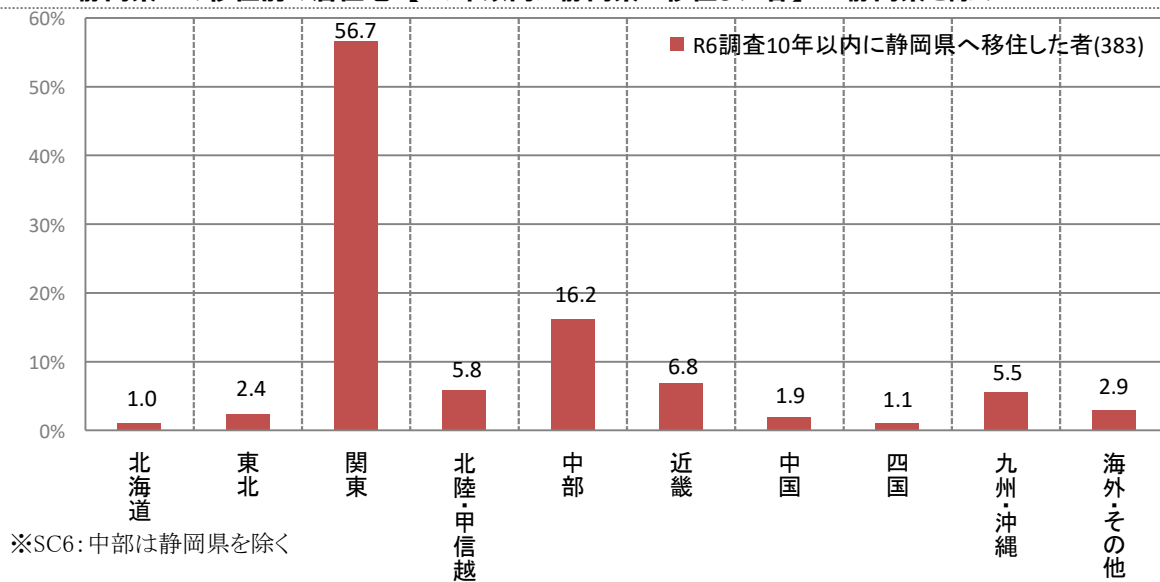
中国: 鳥取・島根・岡山・広島・山口 / 四国: 徳島・香川・愛媛・高知 / 九州: 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島

- 静岡県居住者の移住時期は、直近10年間「2014年～2024年」に移住した方が18.0%となっている。
- 静岡県移住者の移住前の居住地は、地域別に比較すると、「関東」56.7%、「中部」16.2%、「近畿」6.8%が上位となっている。
- 静岡県移住者の移住前の居住地Top5は、「東京都」23.0%、「神奈川県」19.8%、「愛知県」13.6%、「千葉県」5.2%、「埼玉県」4.2%である。なお、関東圏以外では、「愛知県」がTop5に入る結果となった。

SC5 静岡県への移住時期【静岡県居住者】

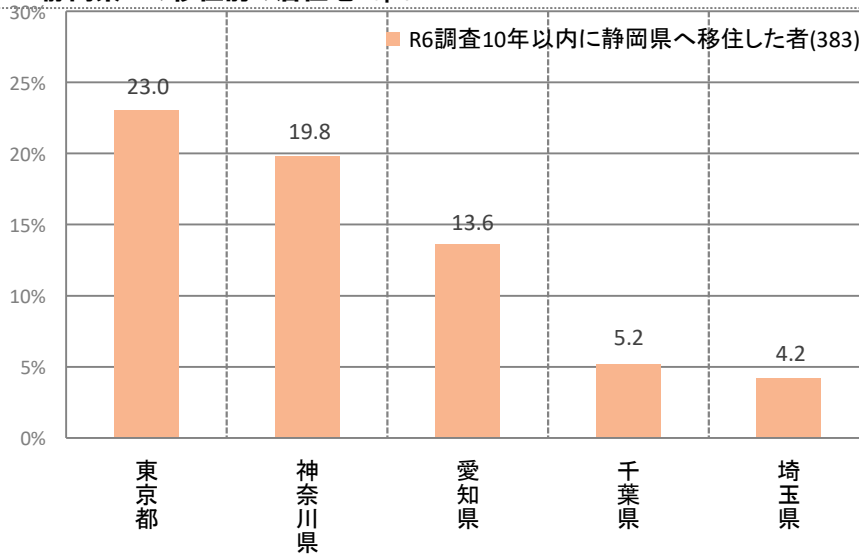


SC6 静岡県への移住前の居住地【10年以内に静岡県へ移住した者】※静岡県を除く



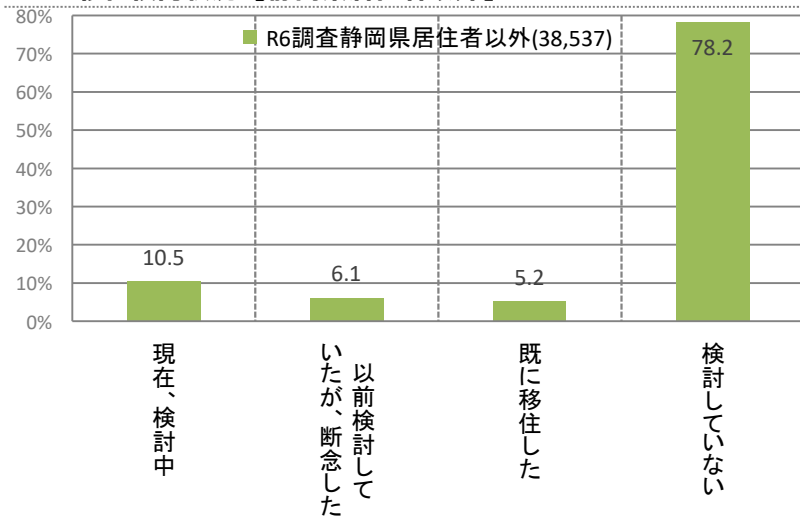
※SC6: 中部は静岡県を除く

<静岡県への移住前の居住地Top5>

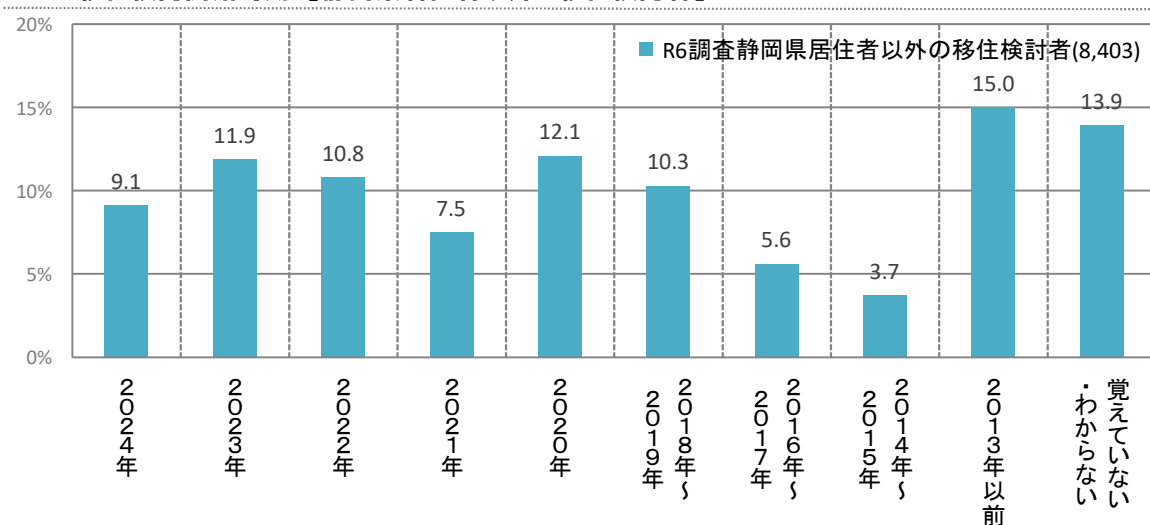


- 静岡県居住者以外の移住検討状況は、「現在、検討中」10.5%、「以前検討していたが、断念した」6.1%、「既に移住した」5.2%となっており、約20%が移住に関心がある(あった)。
- 静岡県居住者以外の移住検討開始時期は、直近10年間「2014年～2024年」に検討を開始した方が、71.0%となっている。
- 静岡県居住者以外の直近10年間に移住検討開始した者の移住検討先は、地域別に比較すると、「関東」35.4%、「近畿」18.4%、「九州・沖縄」17.9%が上位となっている。なお、移住検討先Top10は、関東圏以外で「北海道」9.9%、「静岡県」8.2%、「沖縄県」7.5%、「大阪府」7.2%、「長野県」6.6%、「福岡県」5.9%が入る結果となった。

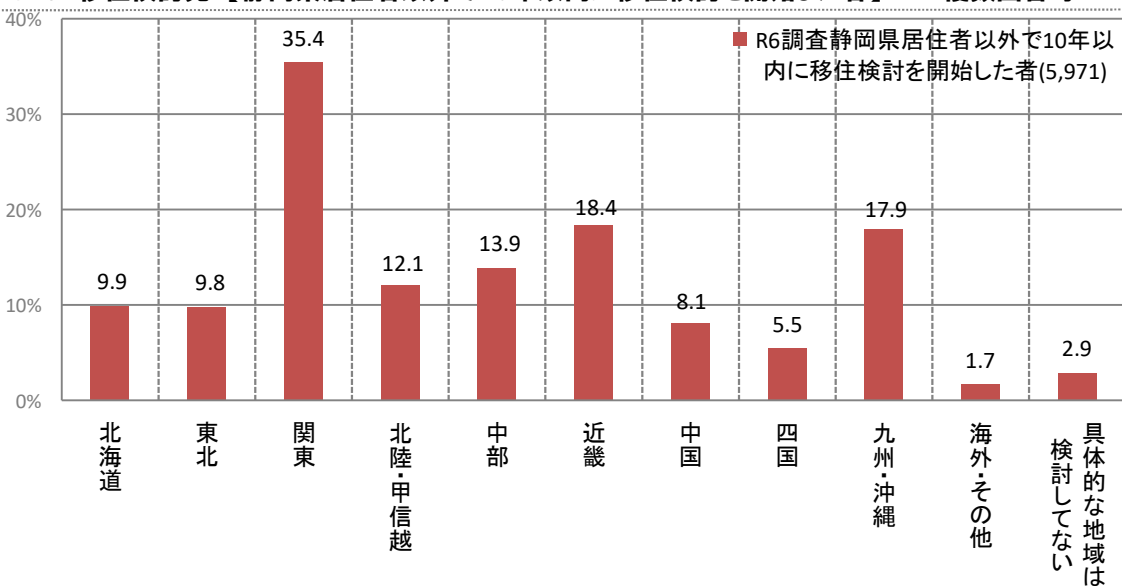
SC7 移住検討状況【静岡県居住者以外】



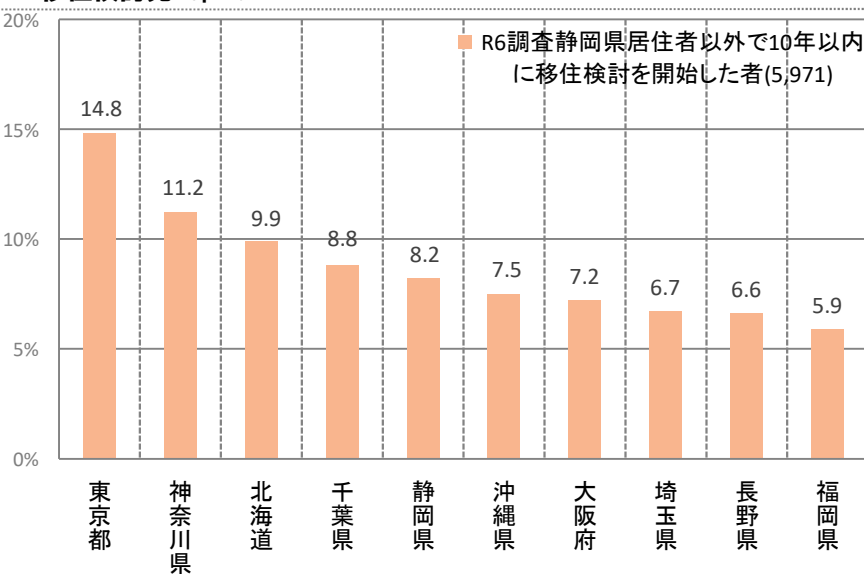
SC8 移住検討開始時期【静岡県居住者以外の移住検討者】



SC9 移住検討先【静岡県居住者以外で10年以内に移住検討を開始した者】 ※複数回答可

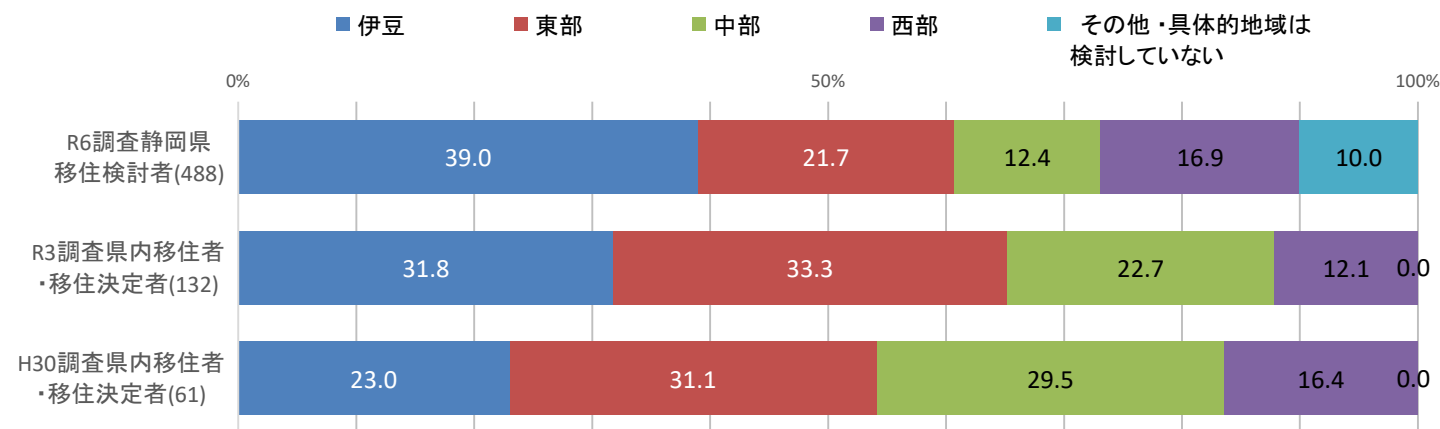


<移住検討先Top10>

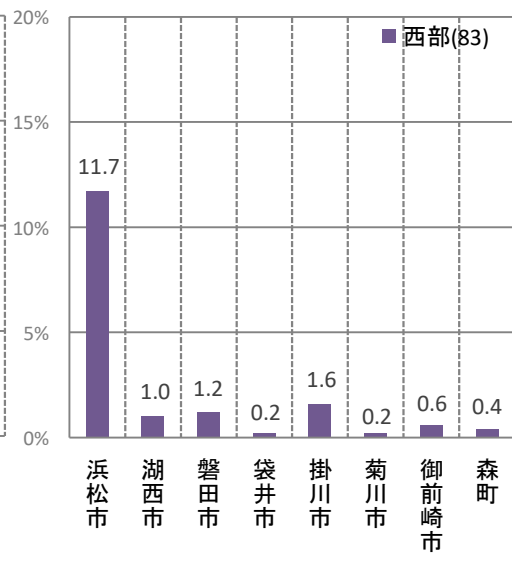
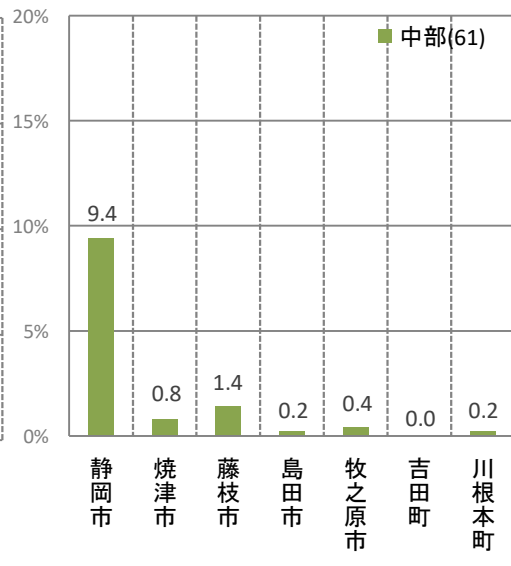
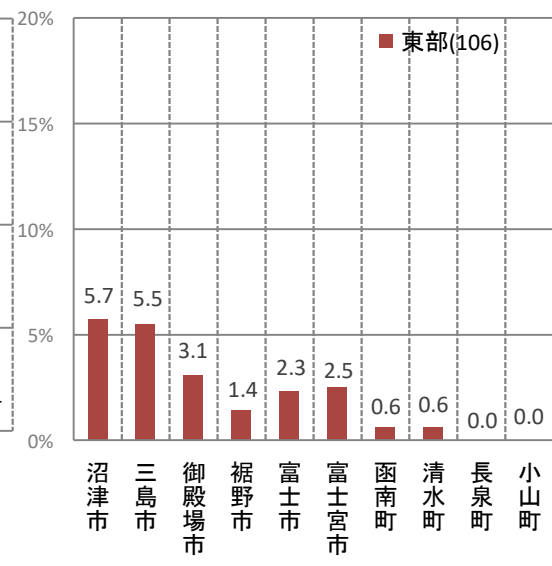
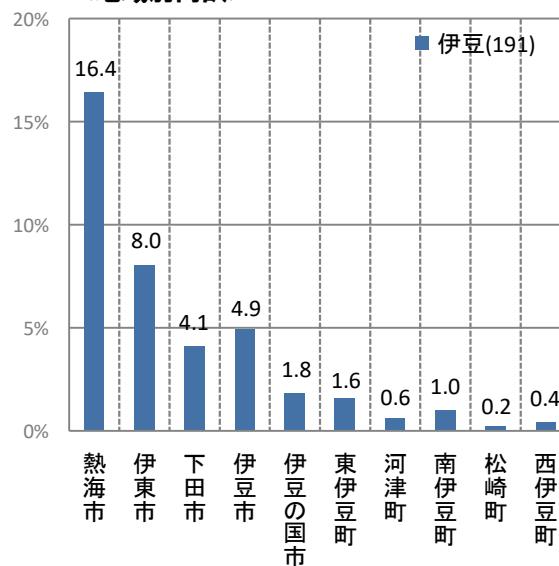


- 静岡県への移住検討者及び断念者の移住希望市町は、地域別に比較すると、「伊豆」39.0%、「東部」21.7%、「中部」12.4%、「西部」16.9%となっている。
- 従来の調査と同様に、「伊豆」と「東部」地域を希望する割合が高くなっている。
- 市町別に比較すると、「熱海市」16.4%、「浜松市」11.7%、「静岡市」9.4%、「伊東市」8.0%、「沼津市」5.7%（以下省略）の順で高くなっている。

SC10 静岡県への移住希望市町【静岡県居住者以外で10年以内に静岡県への移住検討を開始した者】



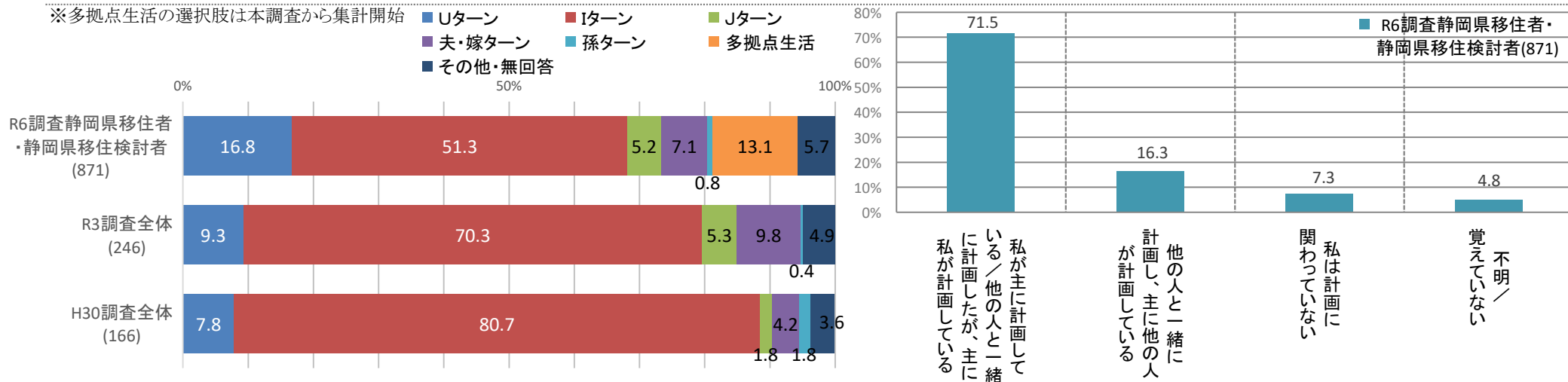
<地域別内訳>



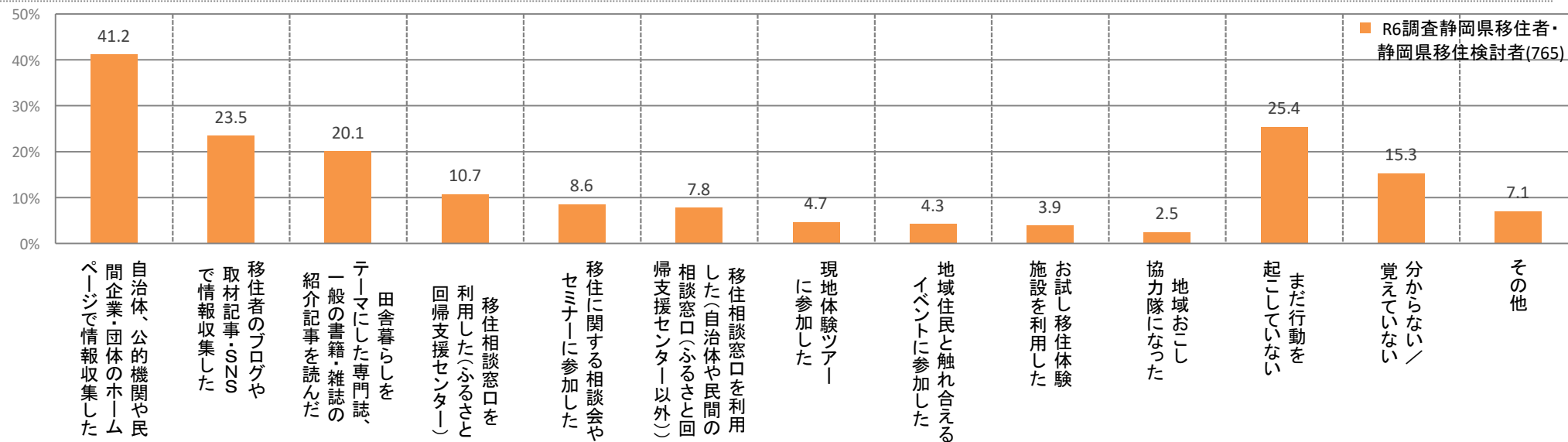
- 静岡県への移住検討者及び移住者(直近10年間)の移住タイプは、「Iターン」51.3%と一番高い割合となっている。また、従来調査と比較すると、「Uターン」の割合が高くなっている。
- 静岡県への移住検討者及び移住者(直近10年間)の移住計画の関与度は、「私が主に計画している／他の人と一緒に計画したが、主に私が計画している」71.5%が最も高くなっている。
- 静岡県への移住検討者及び移住者(直近10年間)の移住検討時の行動は、「自治体、公的機関や民間企業・団体のホームページで情報収集した」41.2%、「移住者のブログや取材記事・SNSで情報収集した」23.5%、「田舎暮らしをテーマにした専門誌、一般の書籍・雑誌の紹介記事を読んだ」20.1%が上位となっている。

SC11 静岡県への移住タイプ【10年以内に静岡県へ移住した者、静岡県居住者以外で10年以内に静岡県への移住検討を開始した者】 SC12 移住計画の関与度【SC11と同対象者】

※多拠点生活の選択肢は本調査から集計開始



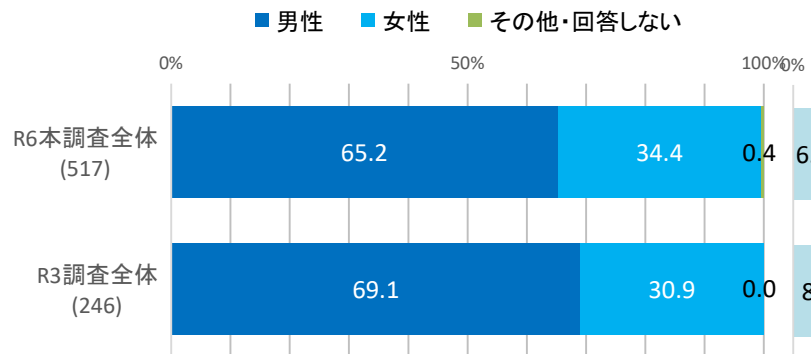
SC13 移住検討時の行動【SC11と同対象者 (SC12「私は計画に関わっていない、不明・覚えていない」回答者を除く)】 ※複数回答可



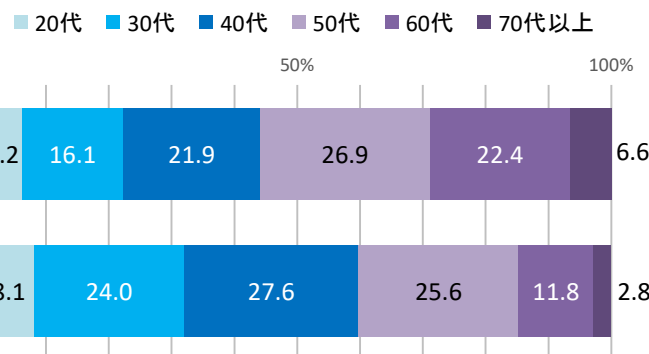
スクリーニング調査結果 本調査対象者抽出 属性 ①

- 性別は、「男性」が65.2%で、「女性」34.4%よりも30.8%多くの方が回答しており、令和3年度調査と同様の傾向である。
- 年代は、「20代-40代」の子育て世代が44.2%となり、令和3年度調査の59.7%と比較すると割合は減少しているが、回答数で比較すると令和6年度調査の方が多くなっている。
- 世帯構成は、「単身」、「夫婦のみ」及び「二世帯(夫婦と子)」で85.1%を占めている。また、令和3年度調査と比較しても構成に大きな変化はない。
- 現在の居住地は、静岡県移住検討者を地域別に比較すると、「関東」69.6%、「中部」10.3%、「近畿」7.0%の順で高い割合となっている。また、都道府県別に比較すると、Top5は「東京都」16.8%、「神奈川県」8.1%、「愛知県」4.8%、「埼玉県」3.9%、「千葉県」2.7%となっている。

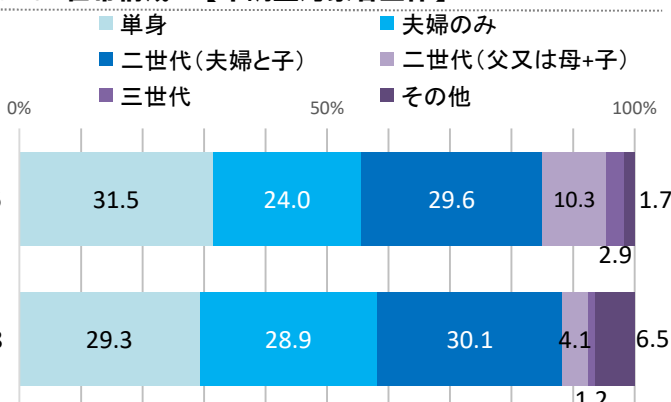
SC1 性別【本調査対象者全体】



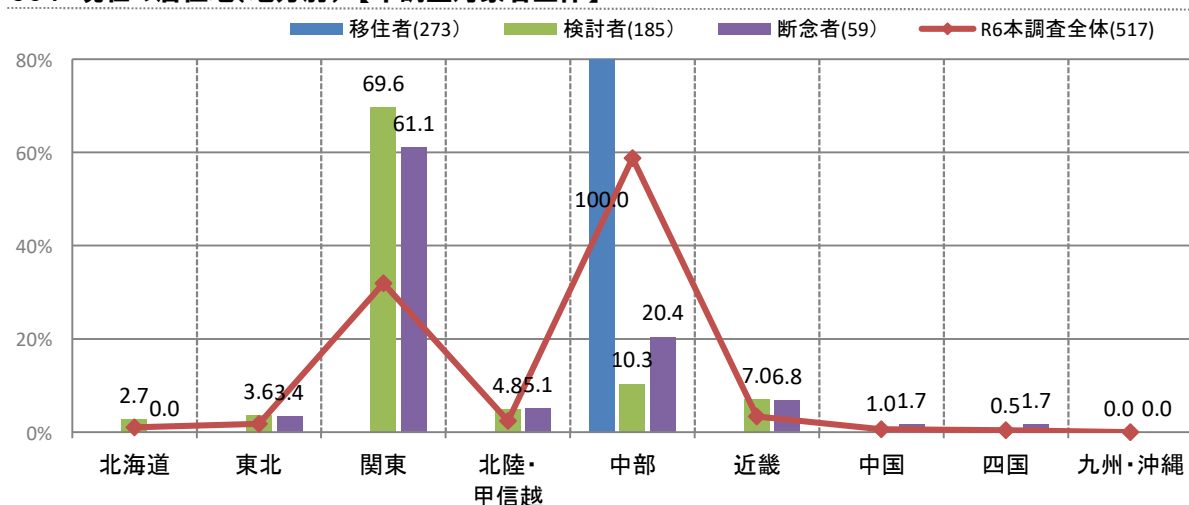
SC2 年代【本調査対象者全体】



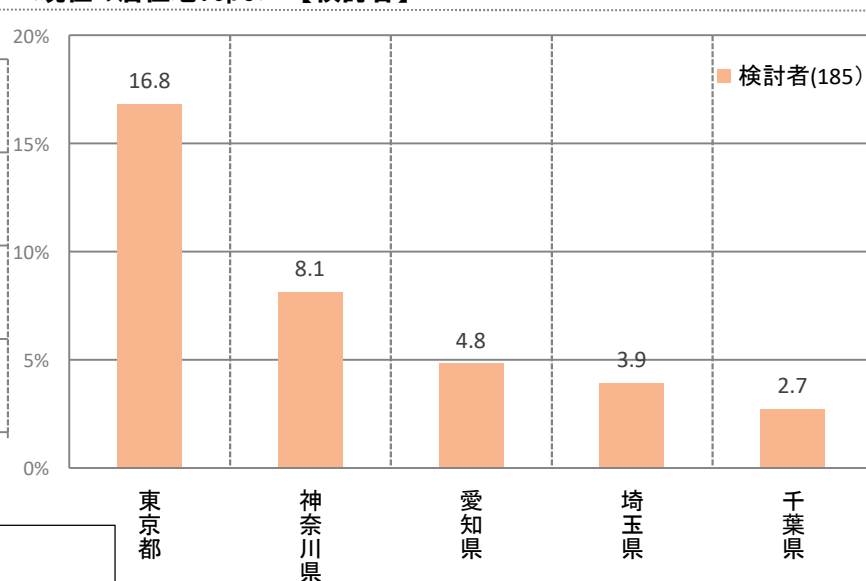
SC3 世帯構成【本調査対象者全体】



SC4 現在の居住地(地方別)【本調査対象者全体】



<現在の居住地Top5>【検討者】



※各エリアに含まれる都道府県(以下、同様)

東北:青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島／関東:茨城・栃木・群馬・埼玉・東京・神奈川・千葉

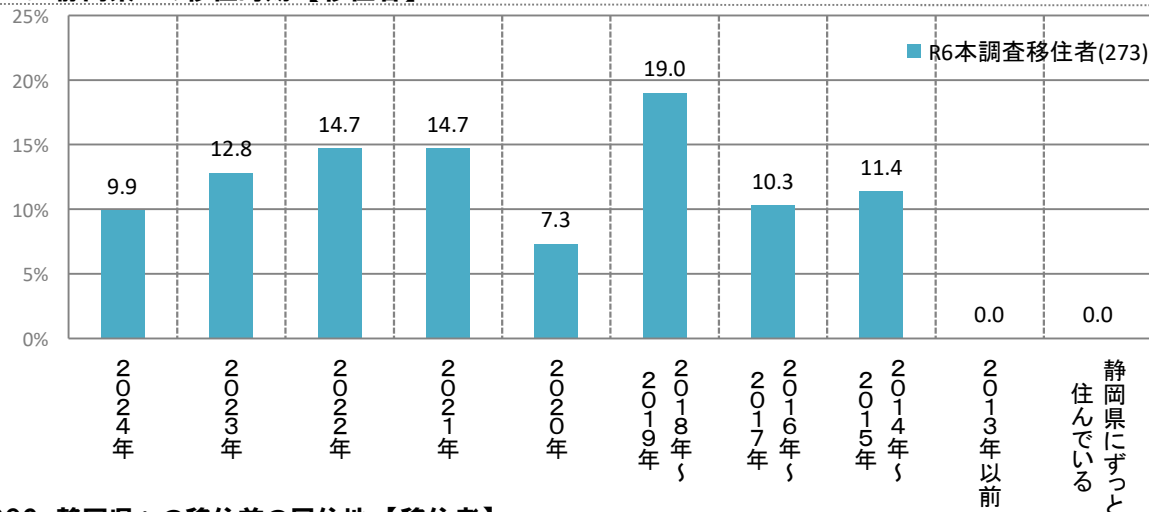
北陸・甲信越:新潟・富山・石川・福井・山梨・長野／中部:岐阜・静岡・愛知・三重／近畿:滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山

中国:鳥取・島根・岡山・広島・山口／四国:徳島・香川・愛媛・高知／九州:福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島

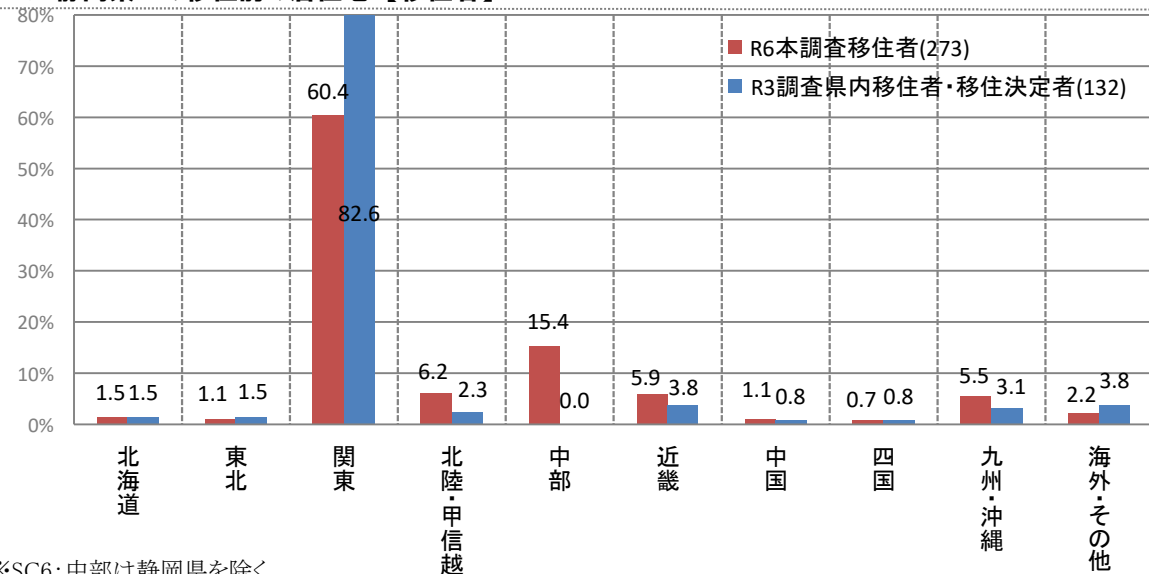
スクリーニング調査結果 本調査対象者抽出 属性 ②

- 静岡県移住者の移住時期は、「2018年～2019年」19.0%が最も高くなっている。また、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた「2020年」が低くなっている。
- 静岡県移住者の移住前の居住地は、地域別に比較すると、「関東」60.4%、「中部」15.4%、「甲信越」6.2%が上位となっている。また、令和3年度調査と比較すると、同様に「関東」が高くなっている。
- 静岡県移住者の移住前の居住地Top5は、「東京都」26.4%、「神奈川県」19.8%、「愛知県」12.8%、「千葉県」5.5%、「埼玉県」5.1%である。なお、関東圏以外では、「愛知県」がTop5に入る結果となった。

SC5 静岡県への移住時期【移住者】

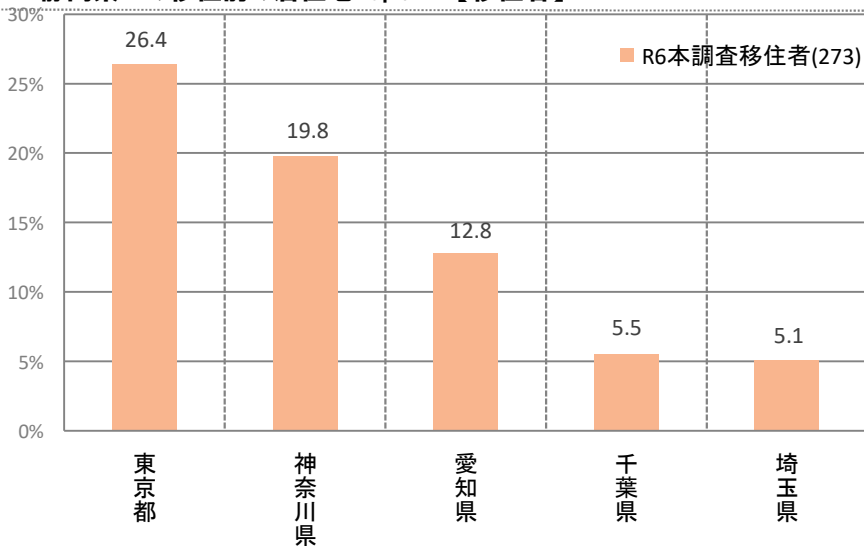


SC6 静岡県への移住前の居住地【移住者】



※SC6: 中部は静岡県を除く

<静岡県への移住前の居住地Top5>【移住者】



検査状況	割合 (%)
現在、検討中	75.8
以前検討していたが、断念した	17.2
既に移住した	7.0
検討していない	0.0

年次	R6本調査検討者・断念者(244)
2024年	15.2
2023年	19.3
2022年	13.1
2021年	8.6
2020年	17.2
2019年	15.2
2018年	5.3
2017年	6.1
2016年	0.0
2015年	0.0
2014年	0.0
2013年	0.0

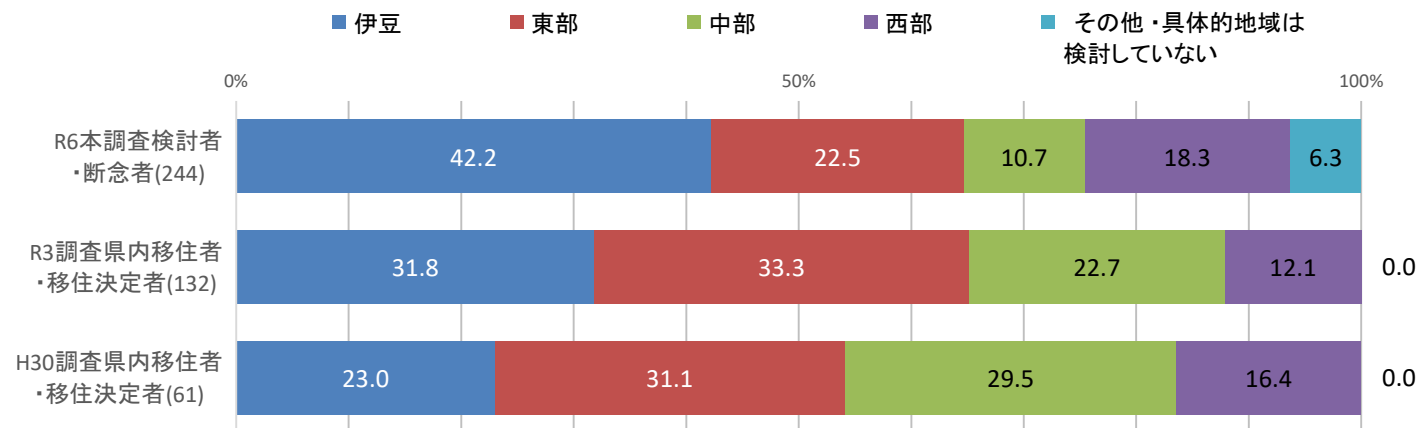
地域	割合 (%)
北海道	13.5
東北	11.9
関東	43.4
北陸・甲信越	29.9
中部	19.7
近畿	16.0
中国	10.7
四国	12.7
九州・沖縄	21.3
海外・その他	4.5
具体的な地域は検討してない	0.0

※SC9: 中部は静岡県を除く
 ※SC9: 静岡県を選択した上で、他に選択した検討先

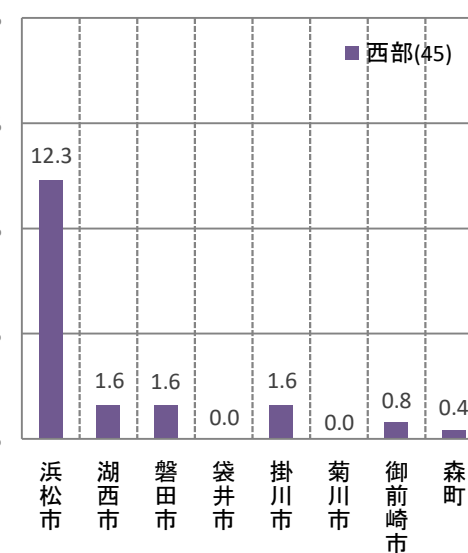
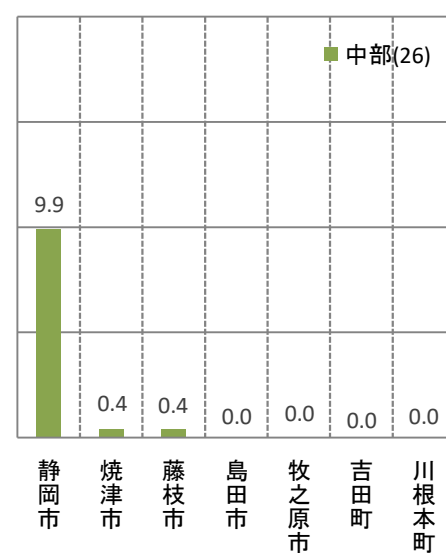
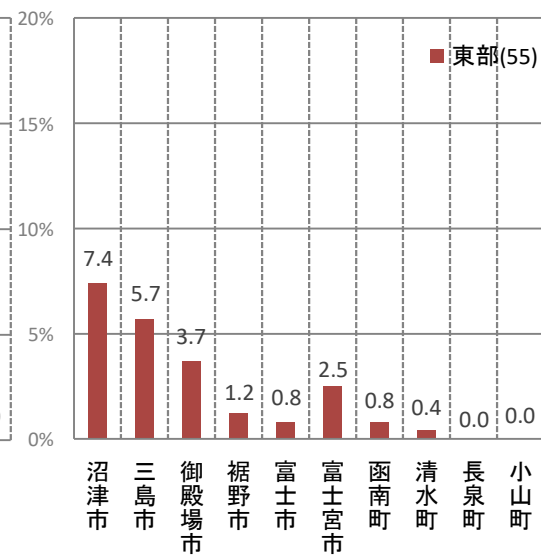
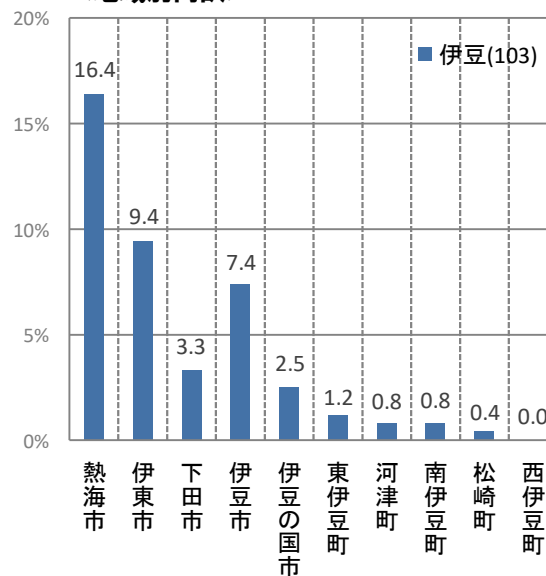
都道府県	割合 (%)
神奈川県	24.2
千葉県	22.1
長野県	20.9
山梨県	19.3
沖縄県	15.2
北海道	13.5
茨城県	13.1
岐阜県	13.1
栃木県	12.7
東京都	12.7

- 静岡県への移住検討者及び断念者の移住希望市町は、地域別で比較すると、「伊豆」42.2%、「東部」22.5%、「中部」10.7%、「西部」18.3%となっている。
- 従来の調査と同様に、「伊豆」と「東部」を希望する割合が高くなっている。
- また、市町別に比較すると、「熱海市」16.4%、「浜松市」12.3%、「静岡市」9.9%、「伊東市」9.4%、「伊豆市」7.4%、「沼津市」7.4%(以下省略)の順で高くなっている。

SC10 静岡県への移住希望市町【検討者・断念者】



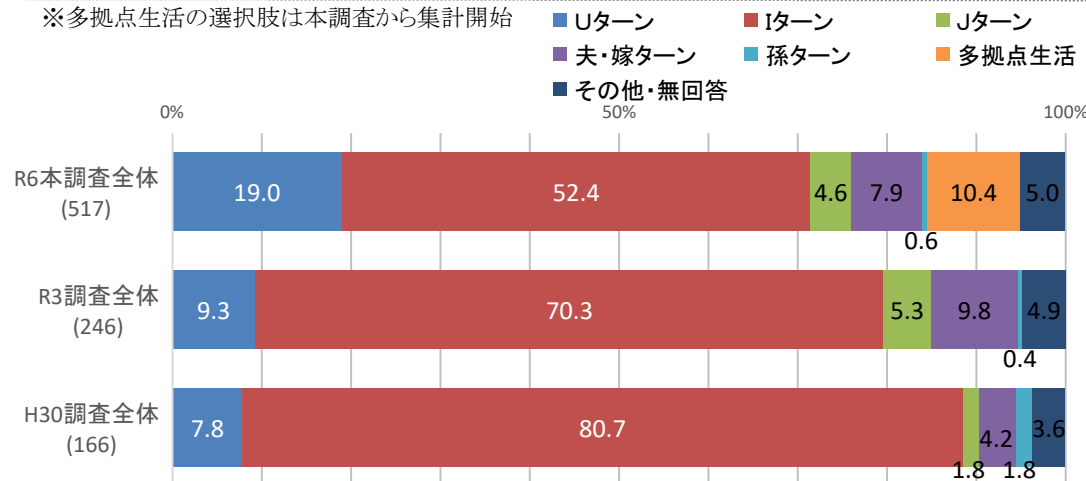
<地域別内訳>



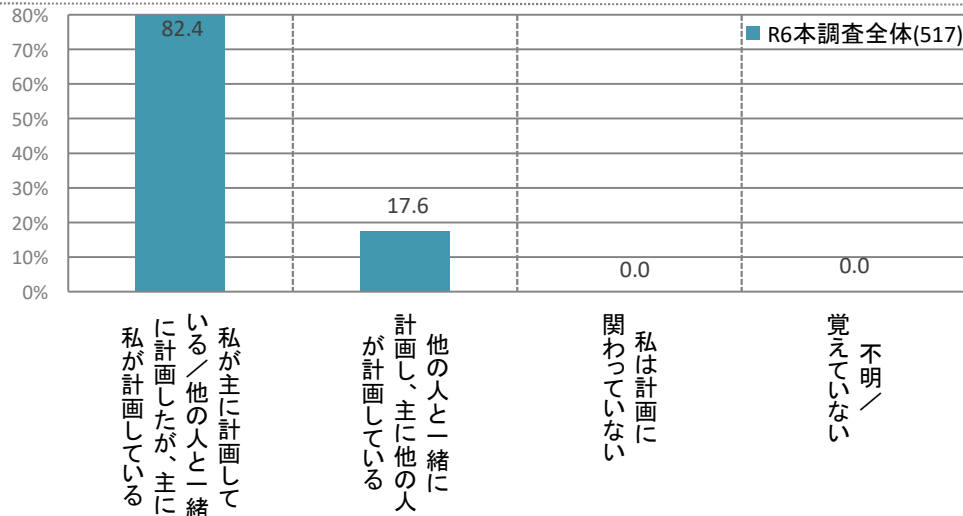
- 移住タイプは、従来調査と同様の傾向となり、「Iターン」52.4%が一番高い割合となっている。
- 移住計画の関与度は、「私が主に計画している／他の人と一緒に計画したが、主に私が計画している」82.4%が最も高くなっている。
- 移住検討時の行動は、「自治体、公的機関や民間企業・団体のホームページで情報収集した」50.1%、「移住者のブログや取材記事・SNSで情報収集した」27.9%、「田舎暮らしをテーマにした専門誌、一般の書籍・雑誌の紹介記事を読んだ」23.2%が上位となっている。

SC11 静岡県への移住タイプ【本調査対象者全体】

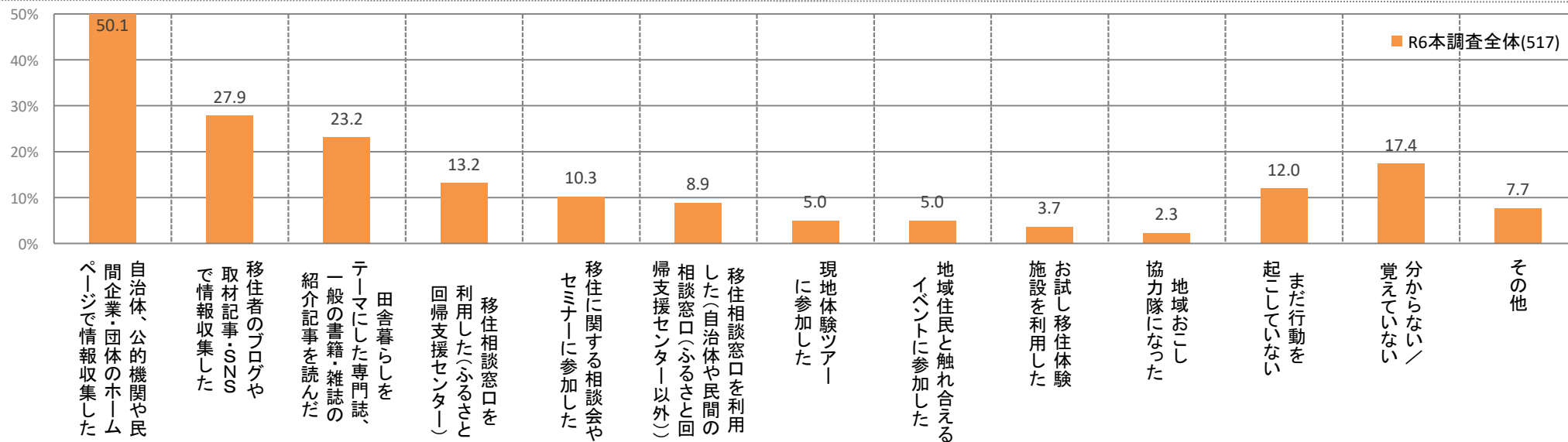
※多拠点生活の選択肢は本調査から集計開始



SC12 移住計画の関与度【本調査対象者全体】



SC13 移住検討時の行動【本調査対象者全体】※複数回答可

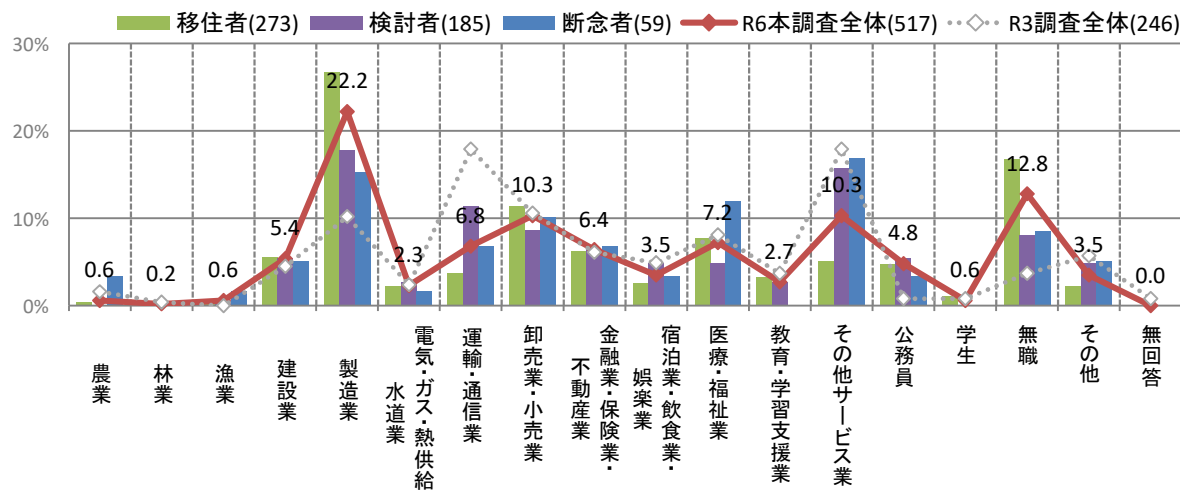


本調査結果 移住前・移住後の職業

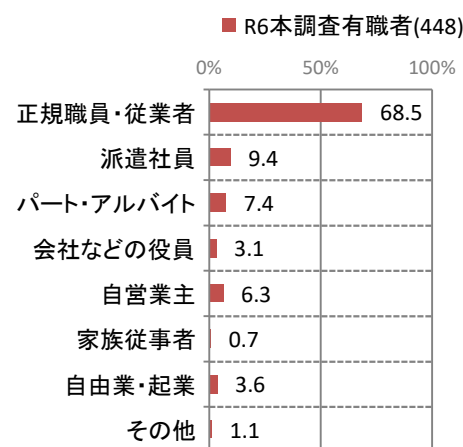
- 移住前の職業は、「製造業」22.2%が最も高く、令和3年度調査と比較すると、「製造業」の割合が高くなり、「運輸・通信業」や「その他サービス業」の割合が低くなっている。
- 移住前の就業形態は、「正規職員・従業者」68.5%が最も高くなっている。また、テレワークの実施状況は、令和3年度調査と比較すると、実施割合が増加している。
- 移住後の職業は、「製造業」20.3%が最も高く、令和3年度調査と比較すると、「製造業」及び「卸売業・小売業」の割合が高くなり、「農業」、「林業」、「漁業」、「運輸・通信業」、「宿泊業・飲食業・娯楽業」及び「その他サービス業」の割合が低くなっている。
- 移住後の就業形態は、「正規職員・従業者」65.0%が最も高くなっている。また、テレワークの実施状況は、令和3年度調査と比較すると、実施割合が増加している。

Q1 移住前の職業・就業形態・テレワーク実施状況（世帯で主たる収入の方）【本調査対象者全体】

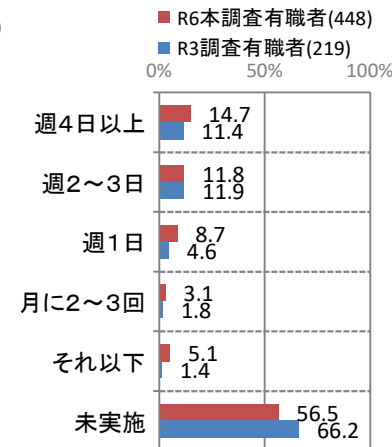
＜移住前の職業＞



＜移住前の就業形態＞

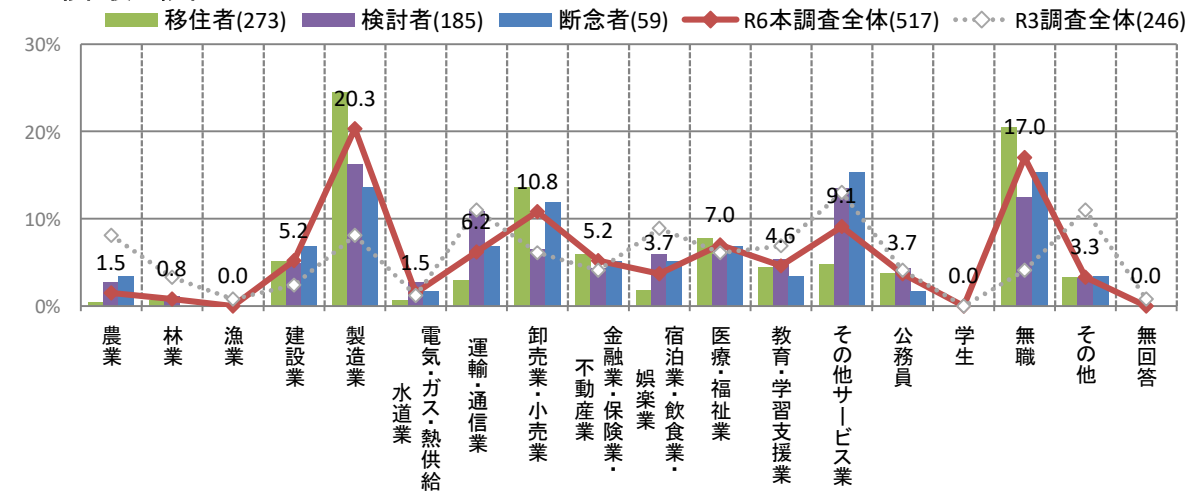


＜移住前のテレワーク実施状況＞

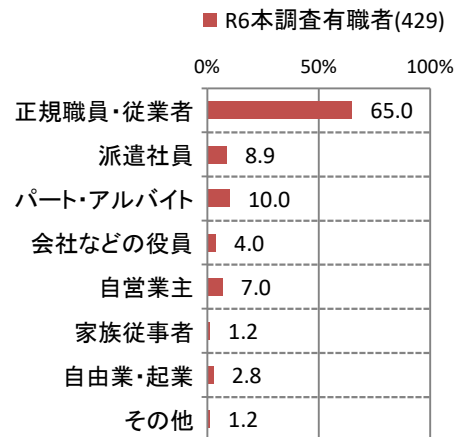


Q2 移住後の職業・就業形態・テレワーク実施状況（世帯で主たる収入の方）【本調査対象者全体】

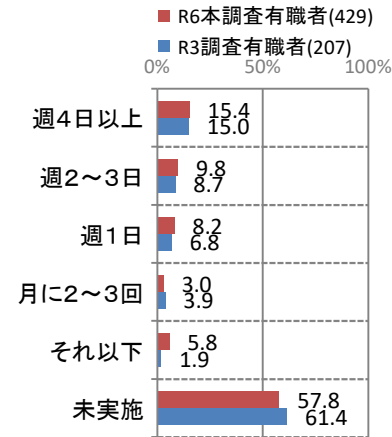
＜移住後の職業＞



＜移住後の就業形態＞

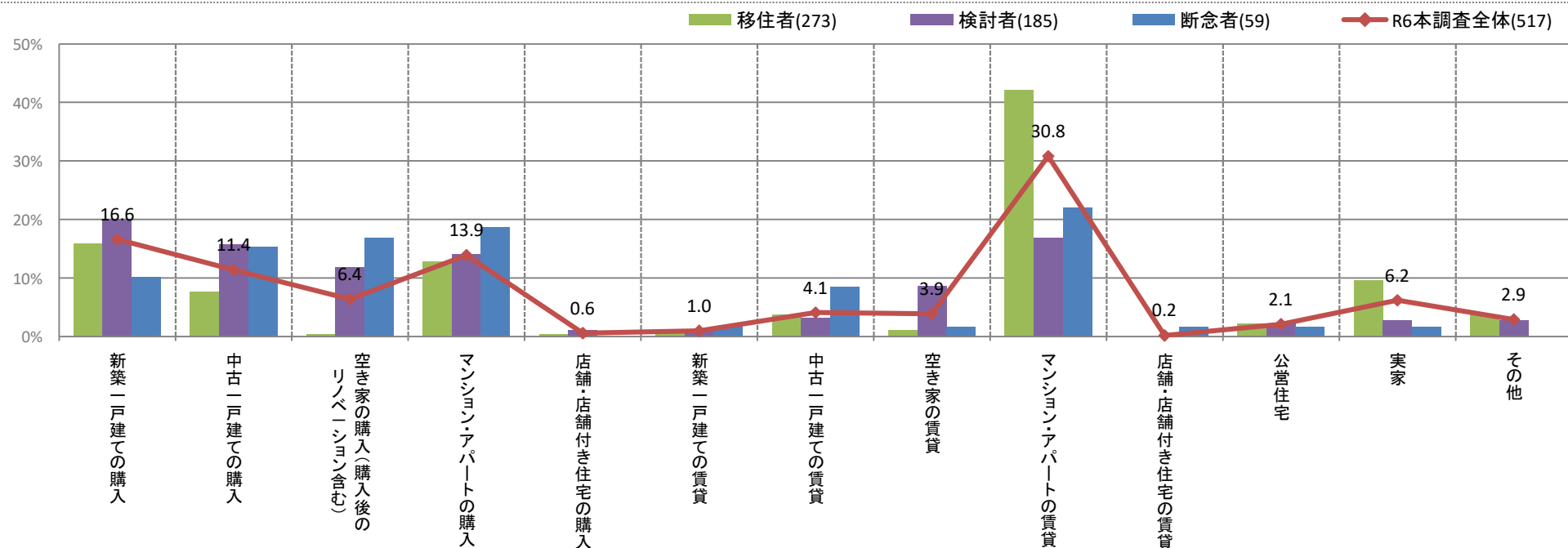


＜移住後のテレワーク実施状況＞

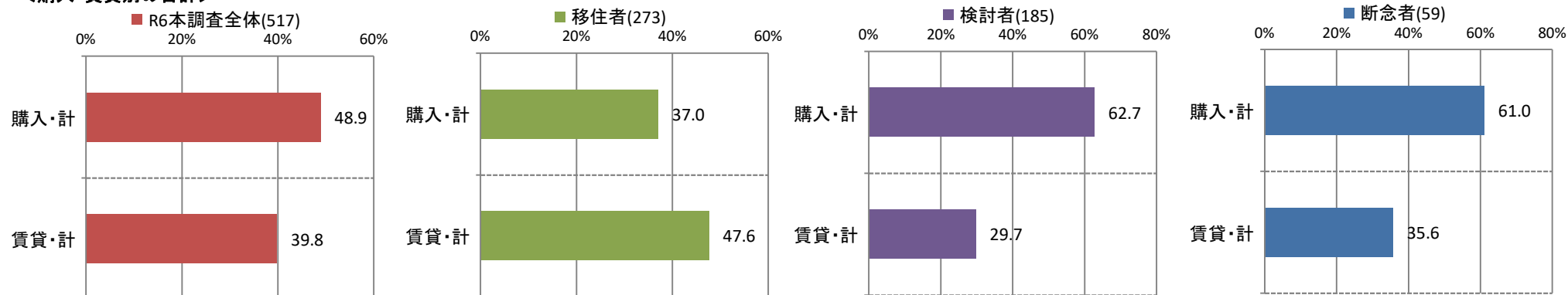


- 移住後の住居形態では、「マンション・アパートの賃貸」30.8%が最も高くなっている。
- 移住状況別に購入と賃貸を比較すると、移住者は「賃貸計」47.6%の方が高くなり、検討者は「購入計」62.7%の方が高くなっている。

Q3 移住後の住居形態【本調査対象者全体】



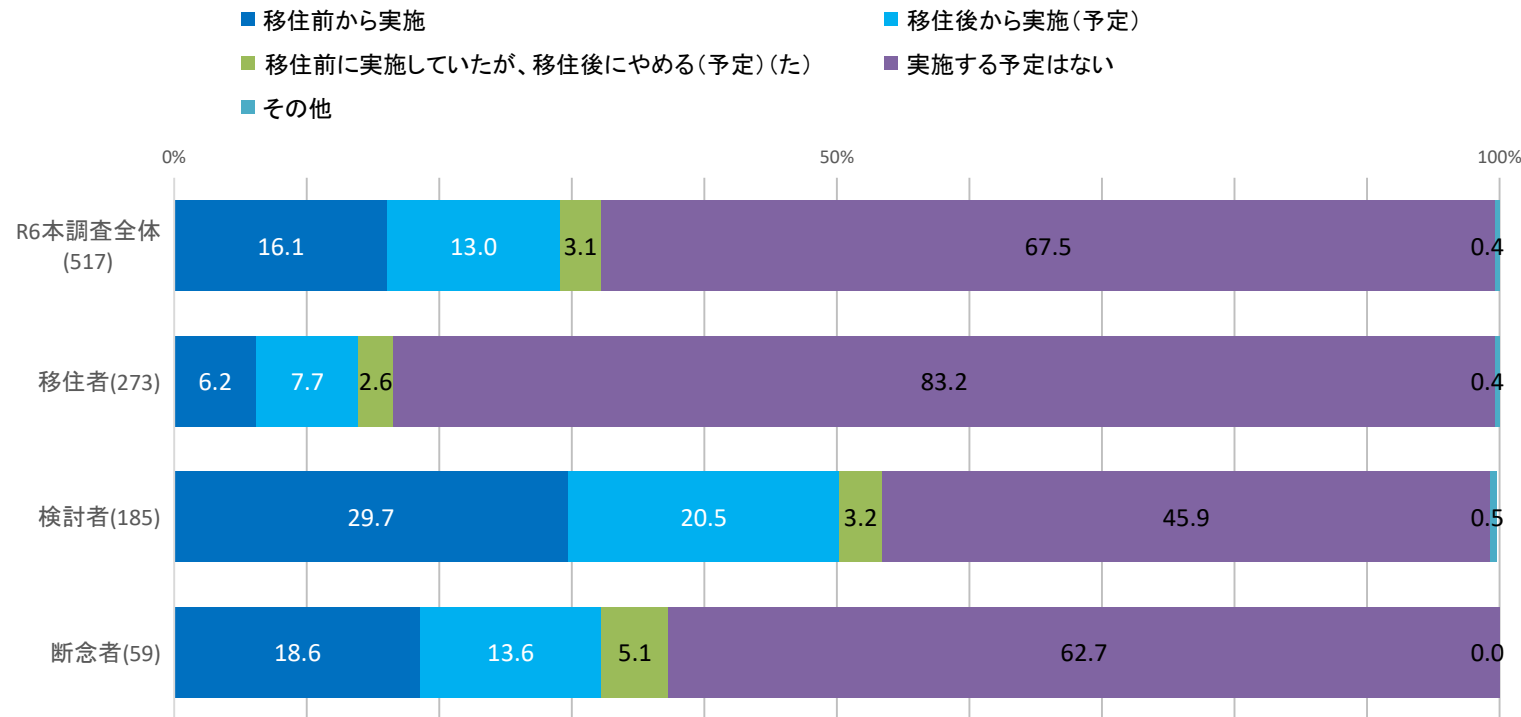
<購入・賃貸別の合計>



本調査結果 複業実施の有無

- 複業実施の有無は、「実施する予定はない」67.5%が最も高くなっている。
- 移住状況別に比較すると、移住者は「実施する予定がない」83.2%が最も高くなっているが、検討者は「移住前から実施」及び「移住後から実施」の合計が50.2%となり、半数以上が複業を実施若しくは希望している。

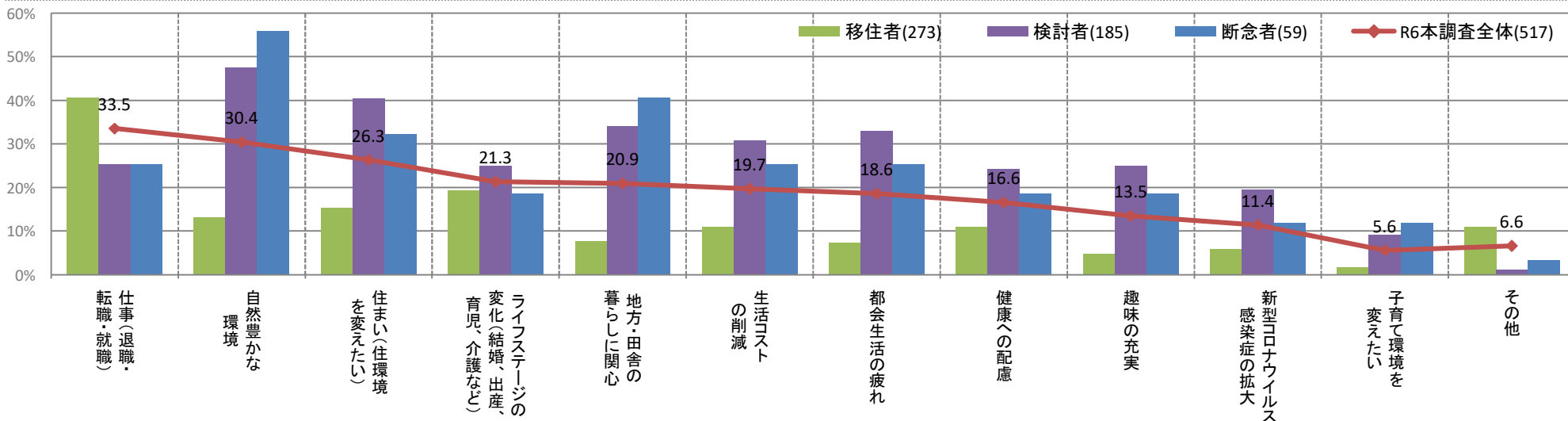
Q4 複業実施の有無(世帯で主たる収入の方)【本調査対象者全体】



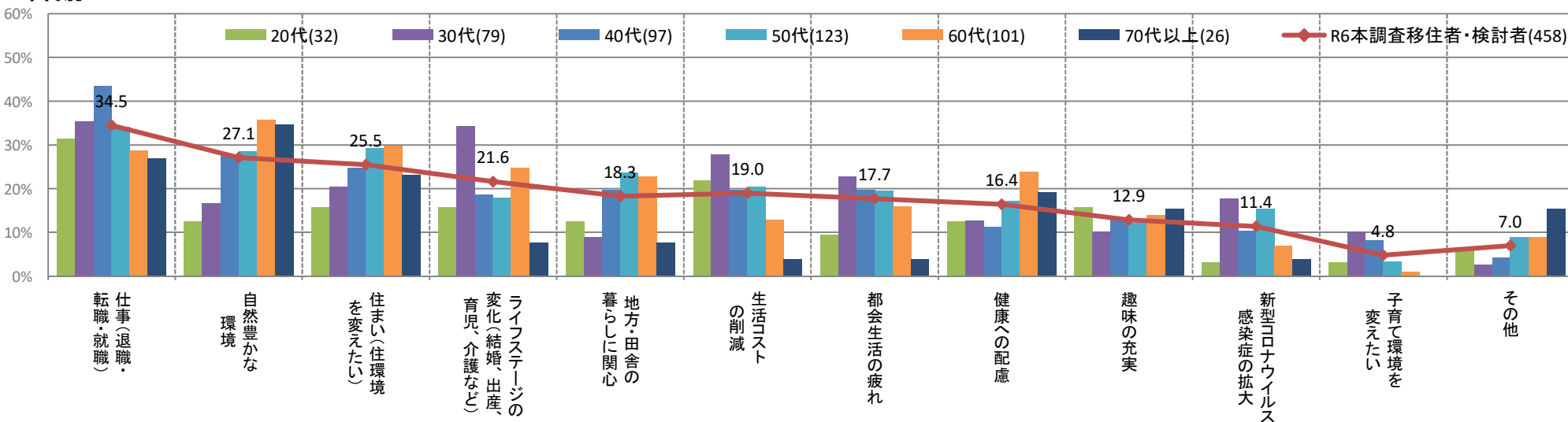
本調査結果 移住を考えた動機

- 移住を考えた動機は、全体としては、「仕事(退職・転職・就職)」33.5%、「自然豊かな環境」30.4%、「住まい(住環境を変えたい)」26.3%、「ライフステージの変化(結婚、出産、育児、介護など)」21.3%、「地方・田舎の暮らしに関心」20.9%が上位となっている。
- 移住状況別に比較すると、移住者では、「仕事(退職・転職・就職)」や「ライフステージの変化(結婚、出産、育児、介護など)」が高く、検討者では、「自然豊かな環境」、「住まい(住環境を変えたい)」、「地方・田舎の暮らしに関心」、「都会生活の疲れ」や「生活コストの削減」が高くなっている。
- 年代別に比較すると、どの年代も「仕事(退職・転職・就職)」が高くなっている。その他では、20代～40代では「生活コストの削減」高く、50代以上では「自然豊かな環境」や「住まい(住環境を変えたい)」などが高くなっている。

Q5 移住を考えた動機【本調査対象者全体】※複数回答可



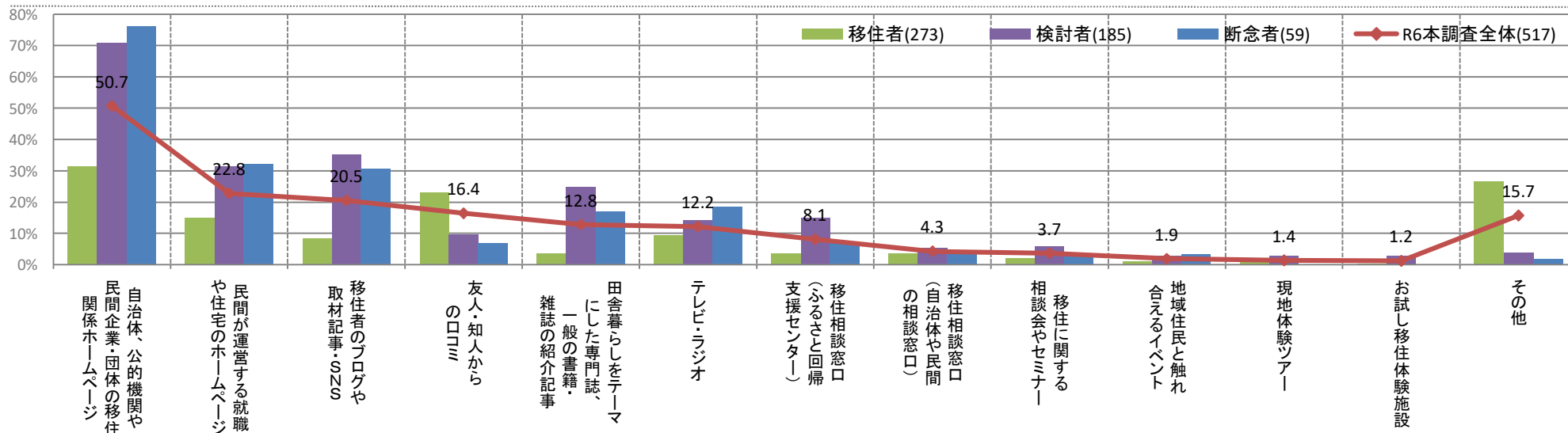
<年代別>



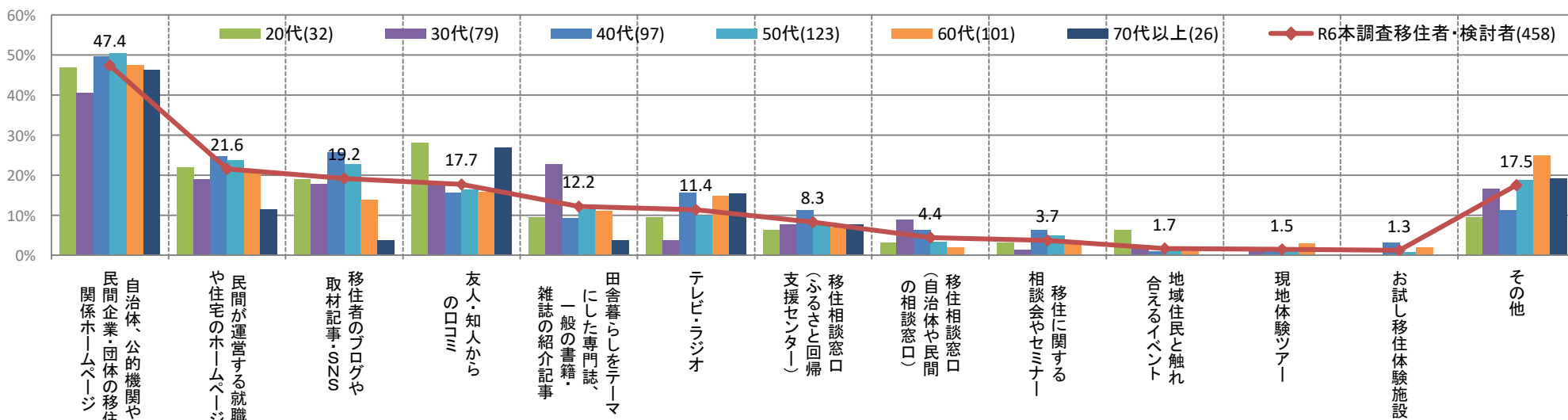
本調査結果 移住を検討する際の情報入手先

- 移住を検討する際の情報入手先は、全体としては、「自治体、公的機関や民間企業・団体の移住関係ホームページ」50.7%、「民間が運営する就職や住宅のホームページ」22.8%、「移住者のブログや取材記事・SNS」20.5%が上位となっている。移住状況別で比較すると、移住者は「友人・知人からの口コミ」が他の移住状況と比べて高く、「自治体、公的機関や民間企業・団体の移住関係ホームページ」、「民間が運営する就職や住宅のホームページ」、「移住者のブログや取材記事・SNS」などが他の移住状況と比べて低くなっている。
- 年代別に比較すると、20代及び70代以上で「友人・知人からの口コミ」が他の年代と比べて高くなり、30代で「田舎暮らしをテーマにした専門誌、一般の書籍・雑誌の紹介記事」が他の年代と比べて高くなっている。

Q6 移住を検討する際の情報入手先【本調査対象者全体】※上位3つまで回答



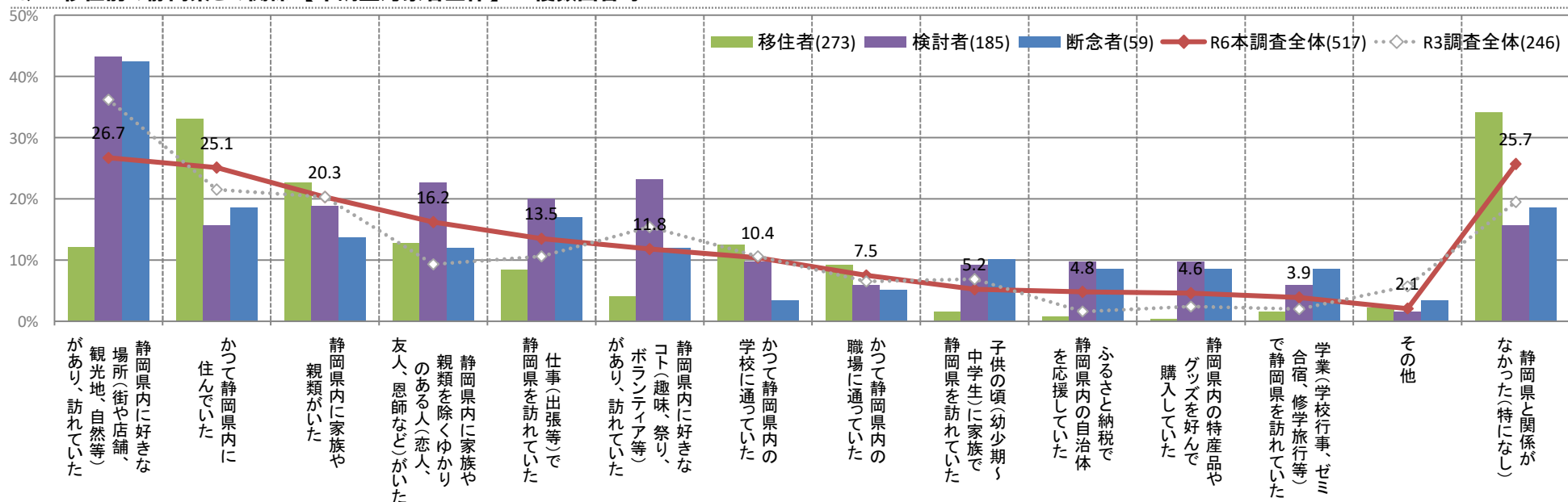
<年代別>



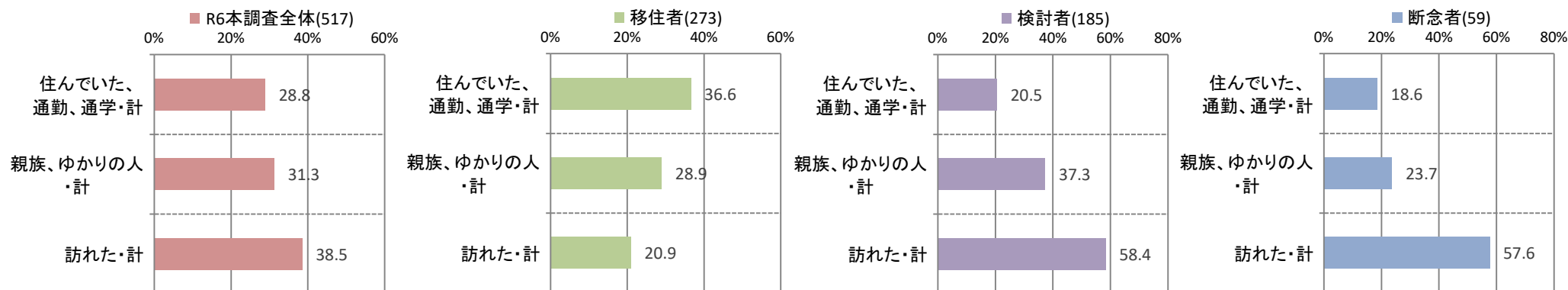
本調査結果 移住前の静岡県との関係

- 移住前の静岡県との関係は、全体としては、「静岡県内に好きな場所(街や店舗、観光地、自然等)があり、訪れていた」26.7%、「かつて静岡県内に住んでいた」25.1%、「静岡県内に家族や親類がいた」20.3%が上位となっている。
- 移住状況別・分類別で比較すると、移住者は「かつて静岡県内に住んでいた」などの「住んでいた、通勤、通学・計」が最も高く、検討者では「静岡県内に好きなコト(趣味、祭り、ボランティア等)があり、訪れていた」や「仕事(出張等)で静岡県を訪れていた」などの「訪れた・計」が最も高くなっている。

Q7 移住前の静岡県との関係【本調査対象者全体】※複数回答可



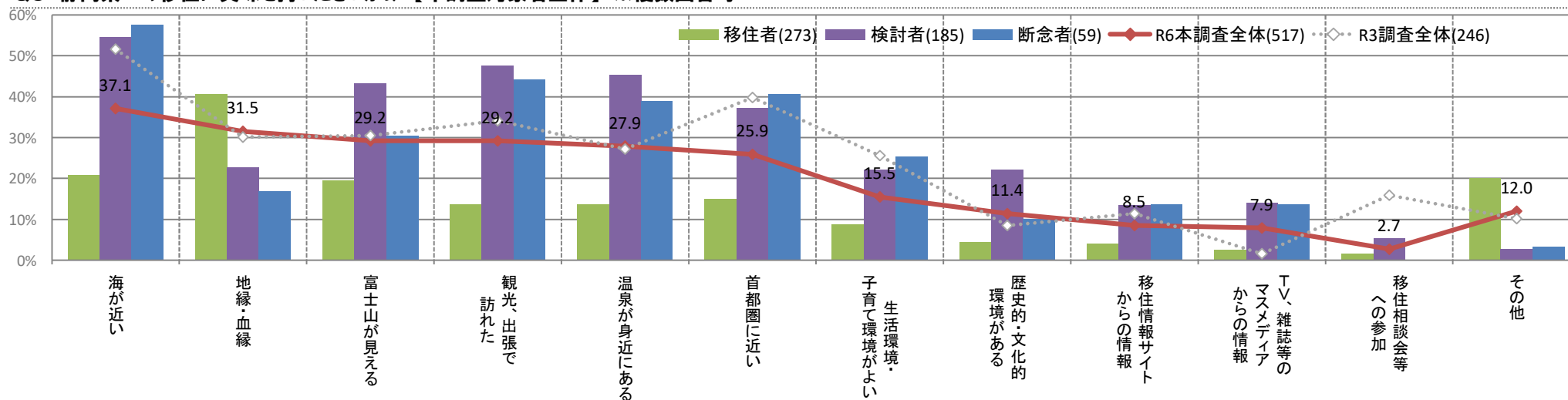
<移住状況別・分類別>



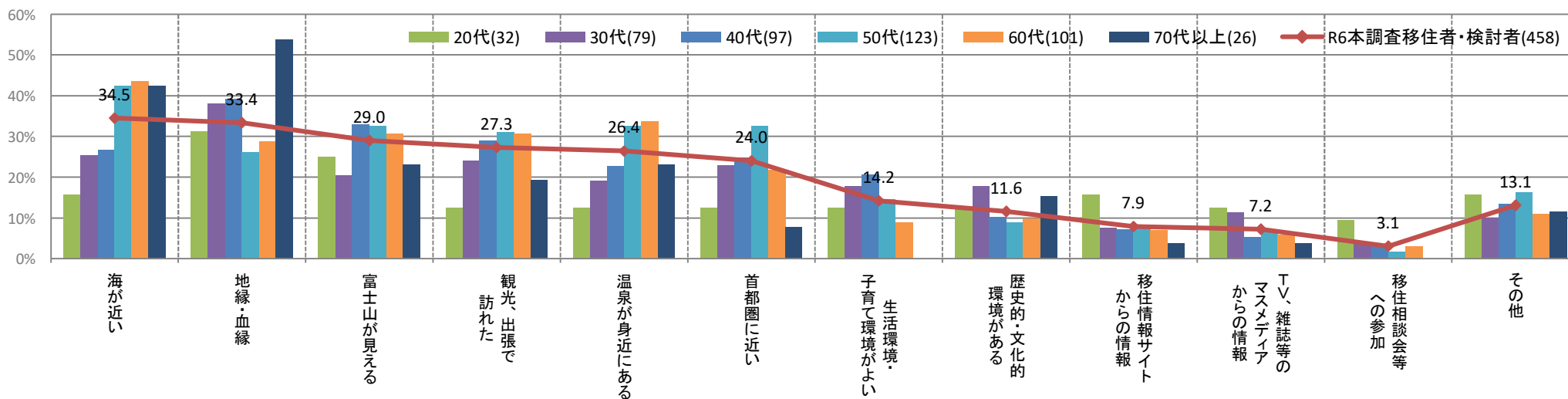
本調査結果 静岡県への移住に興味を持ったきっかけ

- 静岡県への移住に興味を持ったきっかけは、全体としては、「海が近い」37.1%、「地縁・血縁」31.5%、「富士山が見える」29.2%が上位となっている。
- 移住状況別に比較すると、移住者は「地縁・血縁」が最も高く、検討者は、「海が近い」、「富士山が見える」、「観光、出張で訪れた」、「温泉が身近にある」、「首都圏に近い」が上位となっている。
- 年代別に比較すると、20代～40代、70代以上では「地縁・血縁」が最も高くなっている。一方、50代～60代は「海が近い」、「観光、出張で訪れた」、「温泉が身近にある」が上位となっている。

Q8 静岡県への移住に興味を持ったきっかけ【本調査対象者全体】※複数回答可

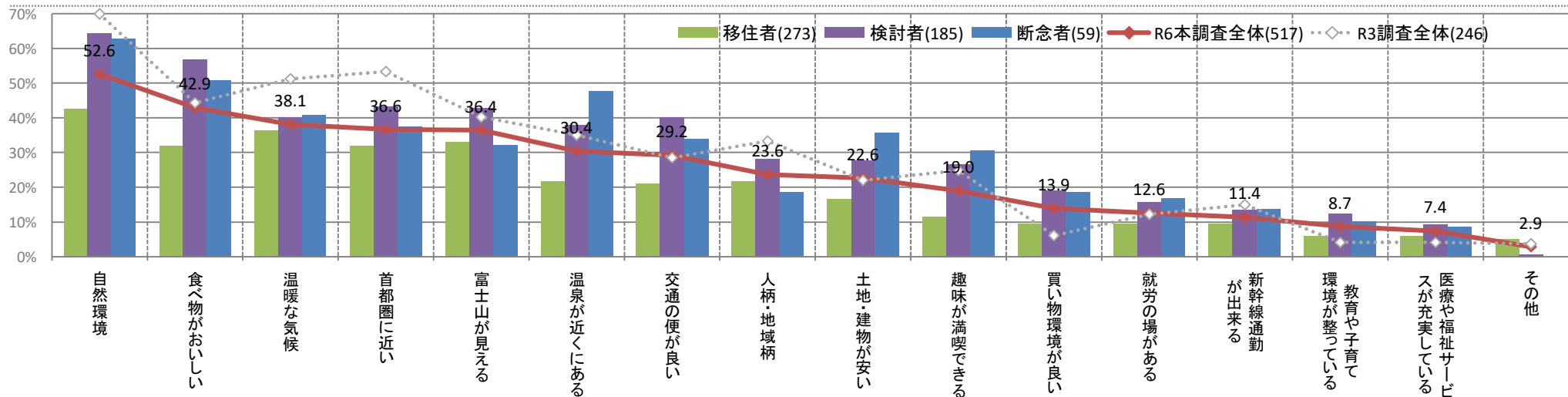


<年代別>

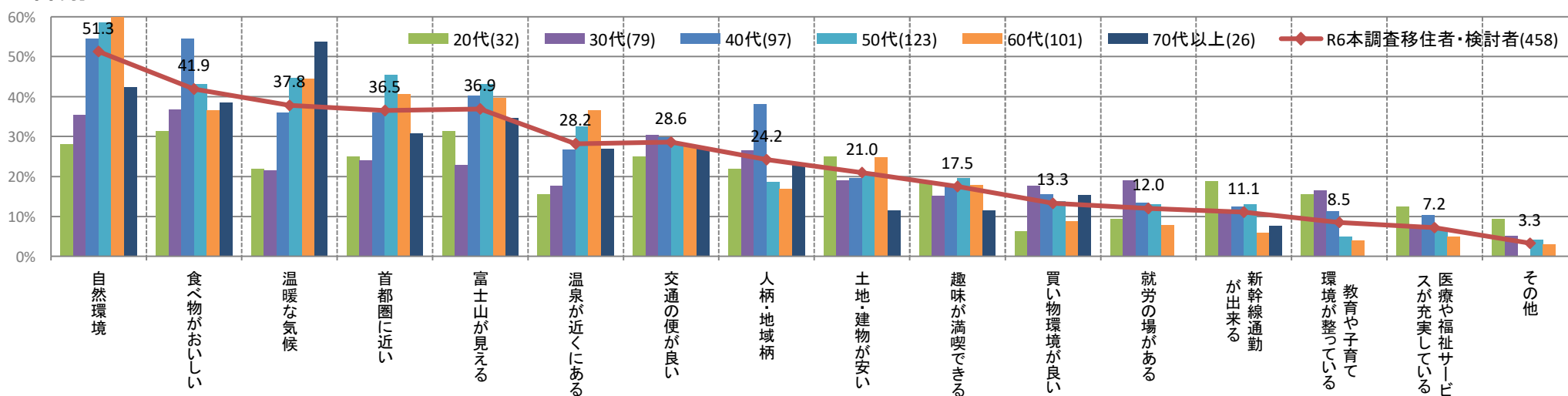


- 静岡県の魅力は、全体としては、「自然環境」52.6%、「食べ物おいしい」42.9%、「温暖な気候」38.1%が上位となっている。
- 移住状況別に比較すると、検討者は「自然環境」、「食べ物おいしい」、「温泉が近くにある」、「交通の便が良い」が移住者と比べて特に高くなっている。
- 年代別に比較すると、40代以上で、「自然環境」、「温暖な気候」、「首都圏に近い」、「温泉が近くにある」が20代～30代と比べて特に高くなっている。

Q9 静岡県の魅力【本調査対象者全体】※複数回答可



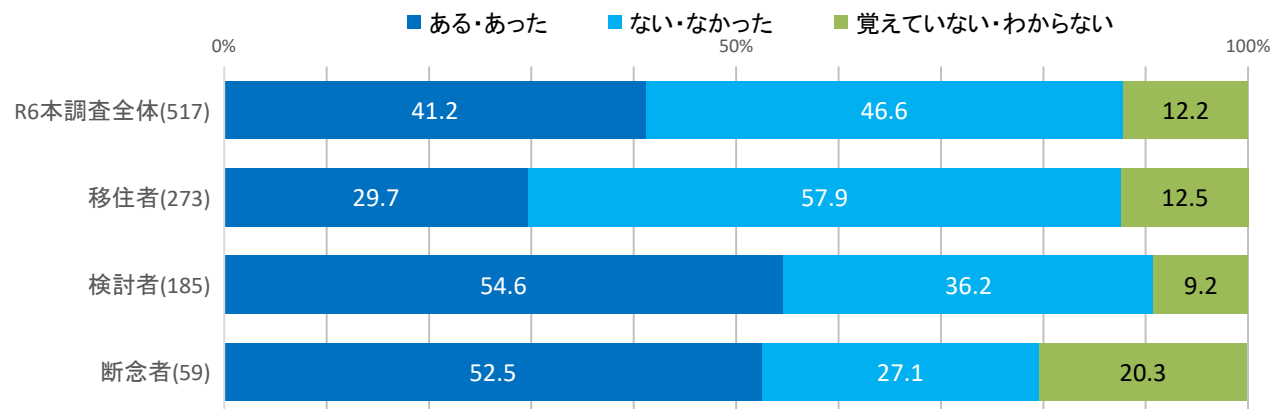
<年代別>



本調査結果 移住検討時のご自身やご家族の懸念点や不安点

- 移住検討時のご自身やご家族などの懸念点や不安点は、全体としては、「ある・あった」41.2%、「ない・なかった」46.6%となった。
- 移住状況別で比較すると、移住者では「ない・なかった」が他と比べて20%以上高くなった。

Q10 移住検討時のご自身やご家族の懸念点や不安点【本調査対象者全体】



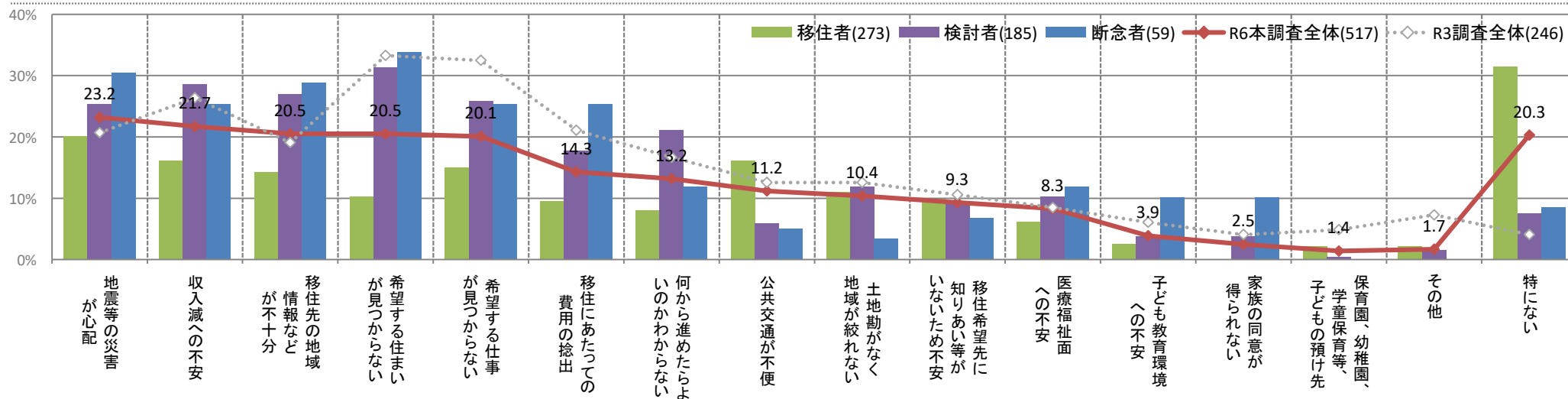
Q11 具体的な懸念点や不安点【Q10「ある・あった」回答者】※抜粋

- | | | |
|----------------|--------------------|----------------------|
| ・地域の人柄 | ・通勤時間、通勤方法 | ・実際に住んでみてからのギャップ |
| ・地元住人との関係性 | ・テレワークできなくなったときの不安 | ・実家や親元から離れること |
| ・近所付き合い | ・収入減に対する不安 | ・親が高齢 |
| ・地域社会に受けこめるか | ・金銭的、経済的不安 | ・家族や友人と離れること |
| ・文化、慣習の違い | ・住居探し | ・親との同居生活 |
| ・治安 | ・物件数が少ない | ・南海トラフ地震 |
| ・自治会の加入 | ・住宅の改修費用 | ・自然災害、富士山の噴火 |
| ・ゴミ出しや葬式の対応 | ・不動産価格 | ・災害時の交通網 |
| ・子育て環境 | ・現在の住居(処分方法等) | ・風が強いこと |
| ・教育環境 | ・医療体制、医療環境 | ・今よりも田舎や不便な場所へ移住すること |
| ・子どもが転校先で馴染めるか | ・病院の不足 | ・家族に地縁がない |
| ・子どもの進学 | ・移住費用 | ・友人、知人がいない |
| ・公共交通機関の不便さ | ・生活費 | ・首都圏のテレビ放送が観られるか |
| ・就業先、転職先があるか | ・車社会、車生活の適応及び対応 | ・新天地での生活 |
| ・就業先で馴染めるか | ・スーパーや病院などの生活環境 | ・電車の待ち時間 |

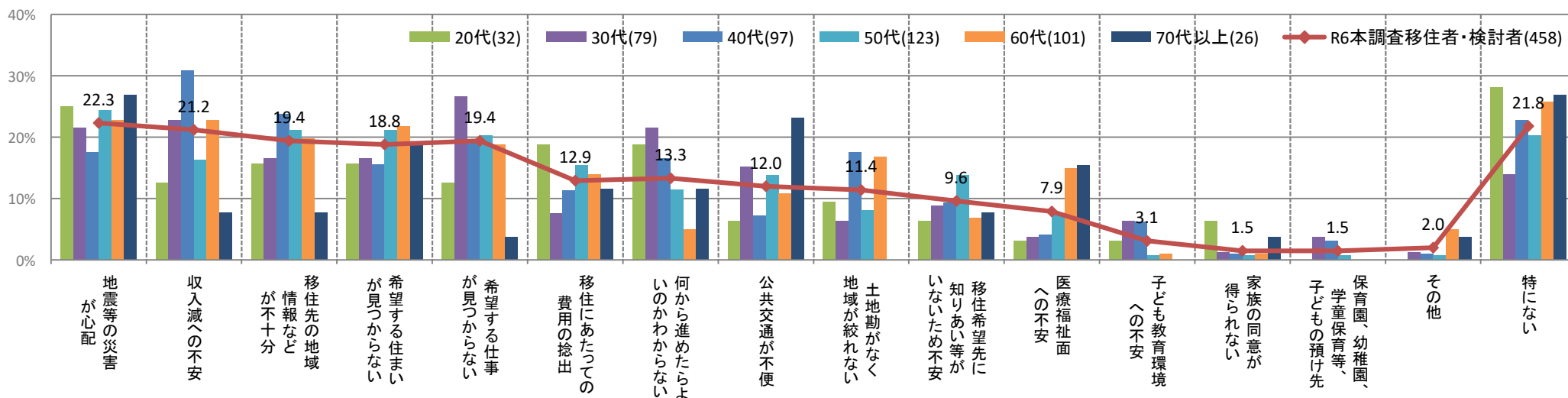
本調査結果 静岡県への移住を検討する上での課題

- 静岡県への移住を検討する上での課題は、全体としては「地震等の災害が心配」23.2%、「収入減への不安」21.7%、「移住先の地域情報などが不十分」20.5%が上位となった。
- 移住状況別に比較すると、移住者では、「特になし」が最も高く、他の移住状況と比べると「公共交通が不便」が高くなっている。一方、検討者では、「希望する住まいが見つからない(価格・家賃、立地、その他)」、「収入減への不安」、「移住先の地域情報などが不十分」、「希望する仕事が見つからない(収入、職種、業務内容、勤務地、その他)」が上位となっている。
- 年代別に比較すると、20代は「移住にあたっての費用の捻出」が他の年代と比べて特に高くなっている。

Q12 静岡県への移住を検討する上での課題【本調査対象者全体】※上位3つまで回答

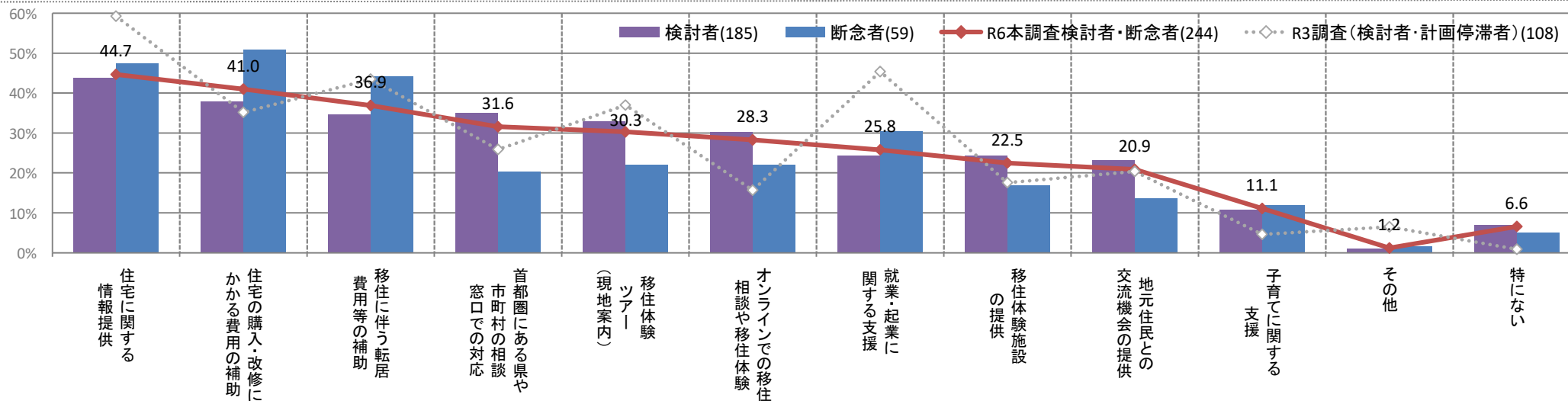


<年代別>

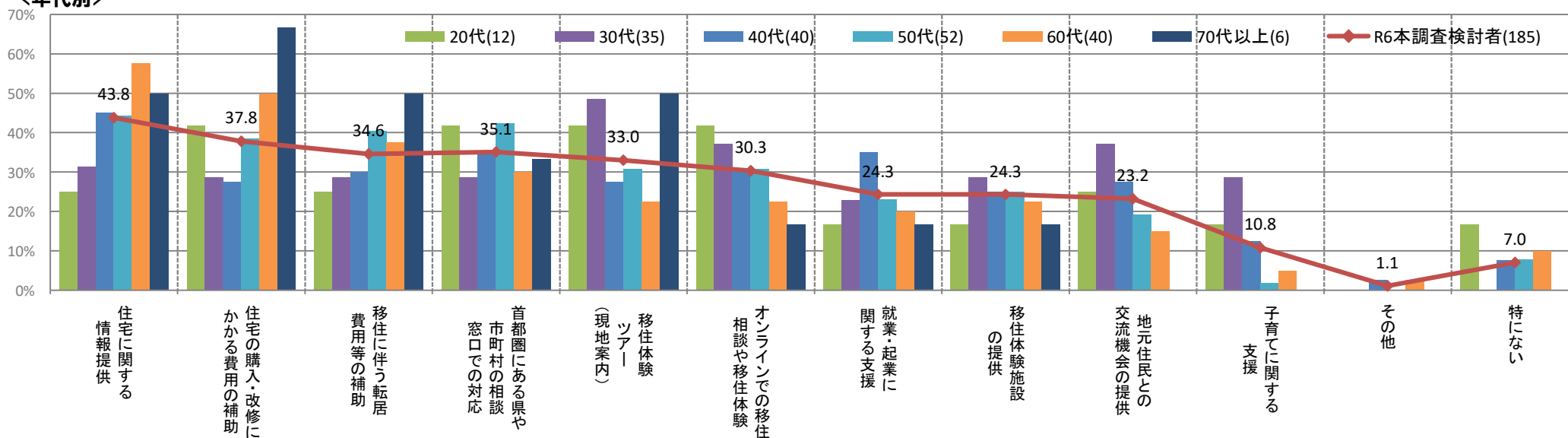


- 求める支援策は、「住宅に関する情報提供」44.7%、「住宅の購入・改修にかかる費用の補助」41.0%、「移住に伴う転居費用等の補助」36.9%が上位となっている。
- 前回調査と比較すると、「住宅に関する情報提供」と「就業・起業に関する支援」が前回調査よりも大きく下回っている。
- 年代別に比較すると、20代では「住宅の購入・改修にかかる費用の補助」、「首都圏にある県や市町村の相談窓口での対応」、「移住体験ツアー（現地案内）」、「オンラインでの移住相談や移住体験」が上位となり、30代では「移住体験ツアー（現地案内）」、「オンラインでの移住相談や移住体験」、「地元住民との交流機会の提供」が上位となっている。

Q13 求める支援策【検討者・断念者】※複数回答可



<年代別>



Q14 移住検討において、困っていること【本調査対象者全体】※抜粋

- | | | |
|------------------------------|----------------------------|---------------------------|
| ・南海トラフ地震・自然災害 | ・希望の物件が少ない、見つからない | ・現状と比較してしまう |
| ・就業先、転職先があるか・転職による収入減少 | ・保証人が見つからない | ・具体的な移住後の生活がイメージできない |
| ・リモートワーク可能な就職先の検討(転職の収入減を危惧) | ・医療機関が都会と比べて少ない | ・移住検討先との移動が大変 |
| ・移住費用、資金不足 | ・スーパーや病院などの生活環境 | ・検討する時間がない・検討に時間がかかる |
| ・金銭、経済的不安・生活費・収入の確保 | ・友人、知人がいない | ・実際に住んでみてからのギャップ |
| ・親が高齢、介護が必要・親、家族の理解及び同意 | ・移住先の選定、移住先の選択肢が多い | ・首都圏に集中しているクライアントの距離 |
| ・配偶者と教育に関する考え方が違った | ・地域の人柄、土地柄が分からない | ・情報の取得方法が分からない |
| ・現在の住居(処分方法等) | ・地域情報の不足・治安 | ・移住体験の機会が少ない、体験する時間、費用がない |
| ・子どもの生活・子どもの学校、進学 | ・地元住人との関係性 | ・公共サービス、移住支援の充実度 |
| ・交通の便が悪い・移動手段・運転免許がない | ・現在の仕事を辞められない(引き留められるなど) | |
| ・車の運転・自家用車の必要 | ・信頼できる相談者がいない | |
| ・住宅の購入費用 | ・移住失敗に対する不安・新天地での不安 | |
| ・住宅の確保・住居探し | ・他県や他の地域との比較ができない(判断がつかない) | |

Q15 静岡県へ移住することを断念した理由【断念者】※抜粋

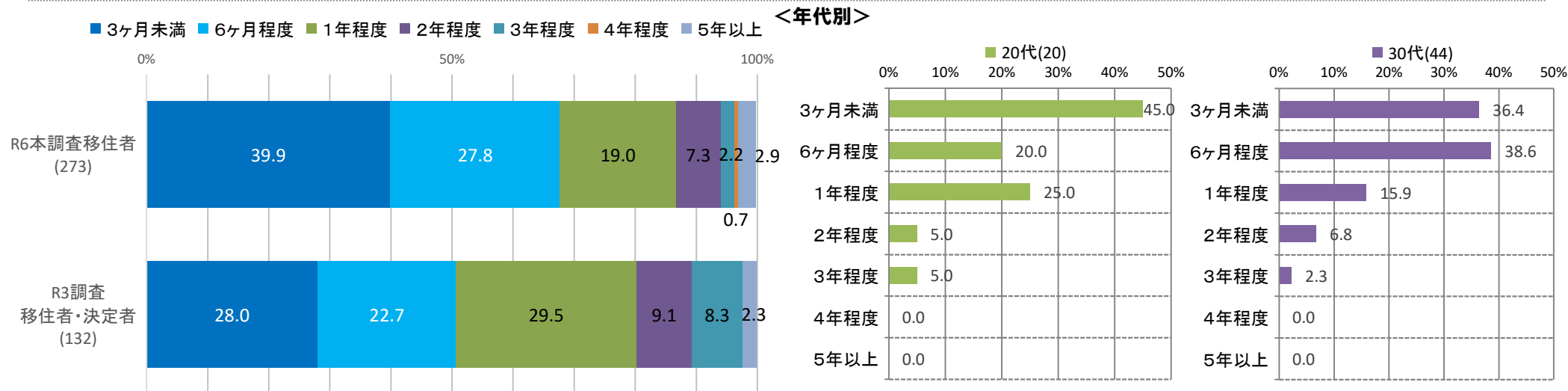
- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| ・南海トラフ地震が不安・地震や災害などの不安 | ・住まいの立地と価格、アクセスの良さ等のバランスが取れなかった |
| ・希望(好み)の土地や物件に巡り合わなかった | ・移住費用、資金不足 |
| ・転職の可能性があるため | ・親の近くに暮らすことで逆に不便を強いられる懸念が出てきた |
| ・家族の同意が得られない・家族の反対があった | ・貯蓄に余裕がなかった |
| ・配偶者と教育に関する考え方が違った | ・高齢の親の調子が悪かった |
| ・子供の成長、学校の選択など | ・現在の居住地での人間関係が良いから |
| ・教育環境 | ・隣接地域、近隣県に移住した |
| ・二拠点生活に子どもたちが慣れるのか、楽しめるのかななどの不安 | ・検討する時間がかかりすぎて根負けして諦めた |
| ・収入面での断念 | |
| ・条件の合う就業先がなかった | |
| ・良さそうな仕事が見つからなかった | |
| ・十分な収入が見込めない | |
| ・新居の購入に見通しが立たなかった | |

本調査結果 移住の検討から決定までに要した期間

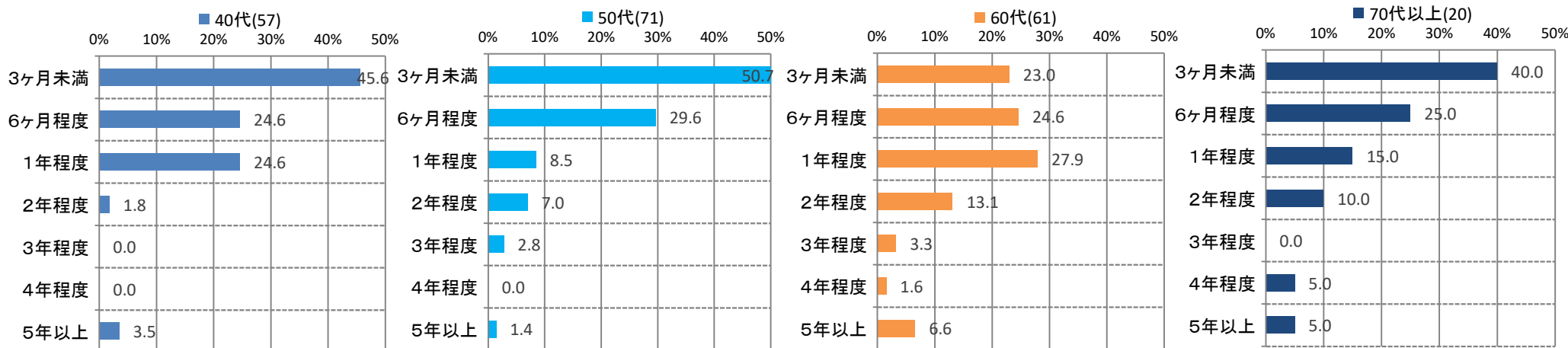
- 移住の検討から決定までに要した期間は、「3ヶ月未満」39.9%、「6ヶ月程度」27.8%、「1年程度」19.0%が上位となり、移住検討から1年程度以内に移住した割合は86.7%となっている。
- 年代別に比較しても、各年代で移住検討から1年程度以内に移住した割合は75%以上となり、全体と同様の傾向となっている。

Q16 移住の検討から決定までに要した期間【移住者】

※4年程度の選択肢は本調査から集計開始



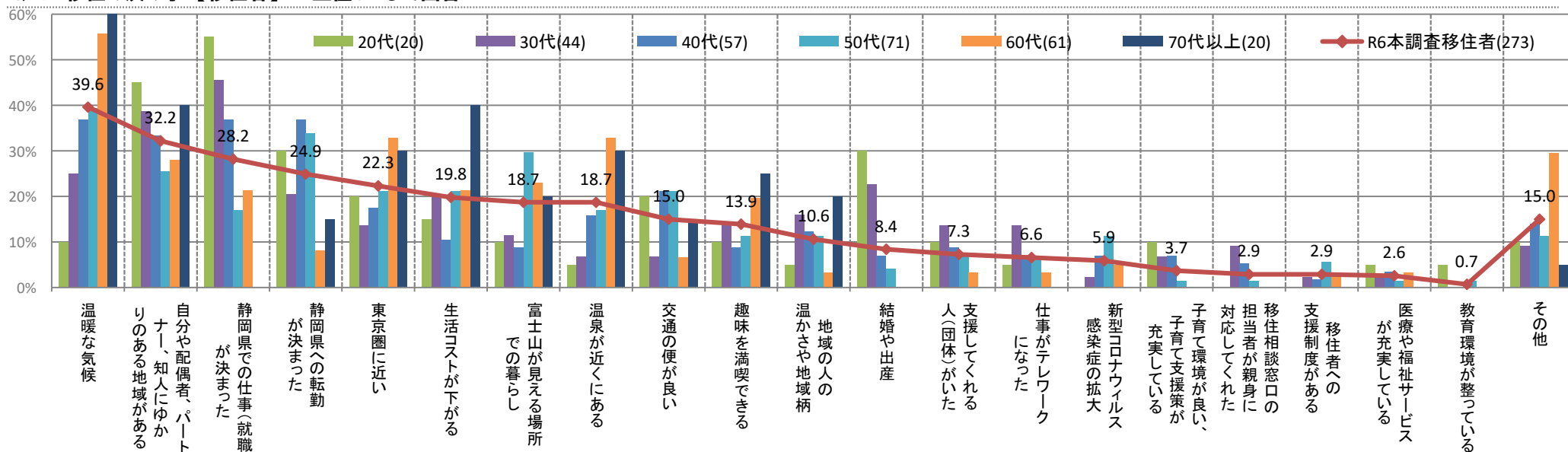
<年代別>



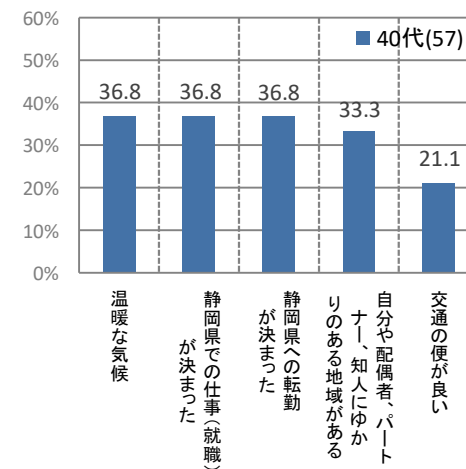
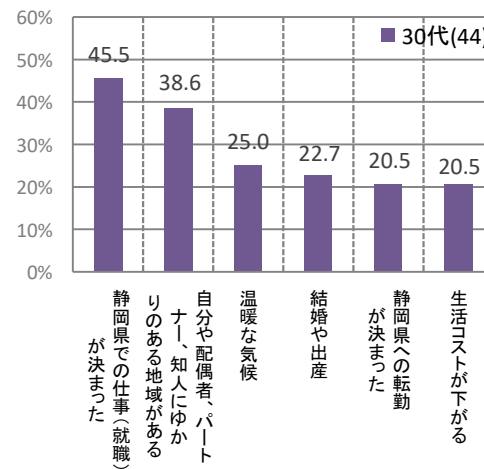
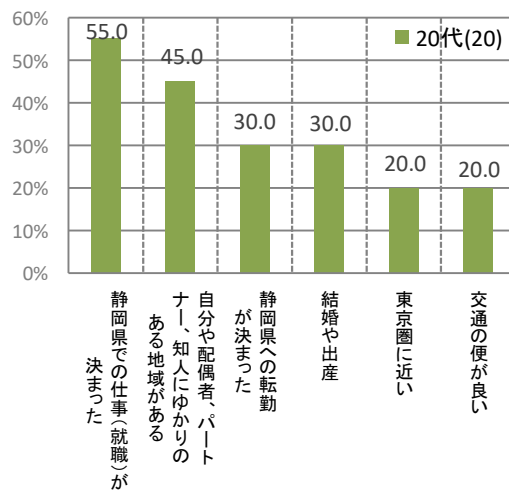
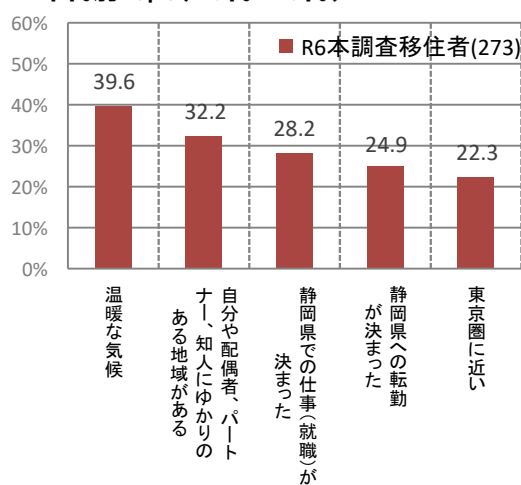
本調査結果 移住の決め手

- 移住の決め手は、「温暖な気候」39.6%、「自分や配偶者、パートナー、知人にゆかりのある地域がある」32.2%、「静岡県での仕事(就職)が決まった」28.2%が上位となっている。
- 年代別に比較すると、20代～40代では「静岡県での仕事(就職)が決まった」、「静岡県への転勤が決まった」などの仕事関係、20代～30代では「自分や配偶者、パートナー、知人にゆかりのある地域がある」、「結婚や出産」などのライフスタイルの変化が高くなっている。一方、その他の年代では「温暖な気候」、「東京圏に近い」、「富士山が見える場所での暮らし」、「温泉が近くなる」が他の年代と比べて高くなっている。

Q17 移住の決め手【移住者】※上位3つまで回答



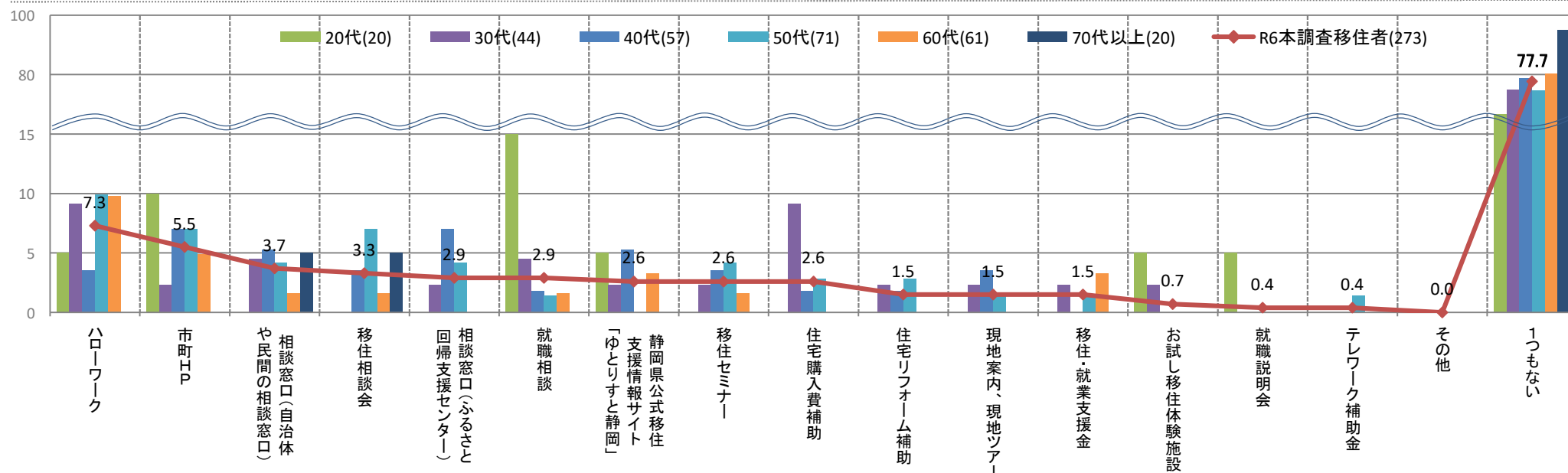
<年代別Top5(20代-40代)>



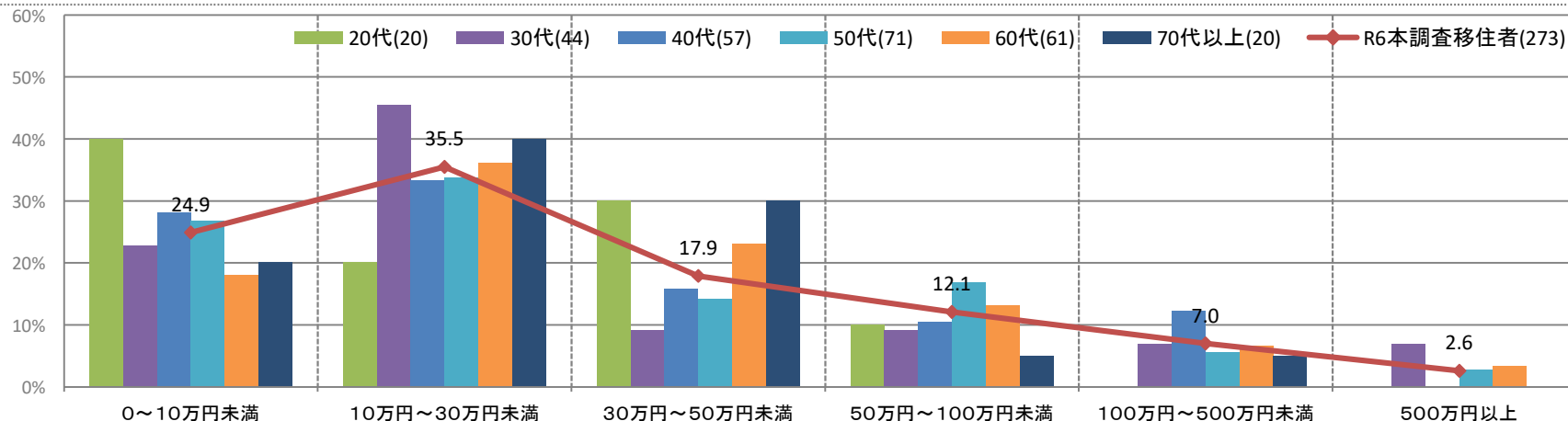
本調査結果 静岡県への移住にあたって利用した制度 / 静岡県へ移住する際に要した費用

- 静岡県への移住にあたって利用した制度は、「1つもない」を除くと、「ハローワーク」7.3%、「市町HP」5.5%、「相談窓口（自治体や民間の相談窓口（ふるさと回帰支援センター以外）」3.7%が上位となっている。
- 静岡県へ移住する際に要した費用は、「10万円～30万円未満」35.5%、「0～10万円未満」24.9%、「30万円～50万円」17.9%が上位となっている。なお、50万円未満では、78.3%となっている。

Q18 静岡県への移住にあたって利用した制度【移住者】※複数回答可



Q19 静岡県へ移住する際に要した費用（移住検討～移住先への引っ越しまで）【移住者】※自家用車・住宅関連費用は除く

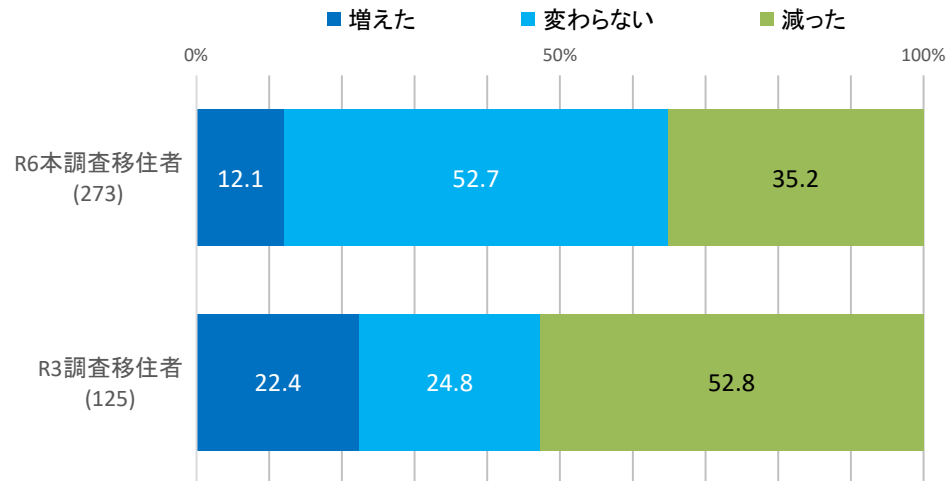


本調査結果 移住後の生活費の変化

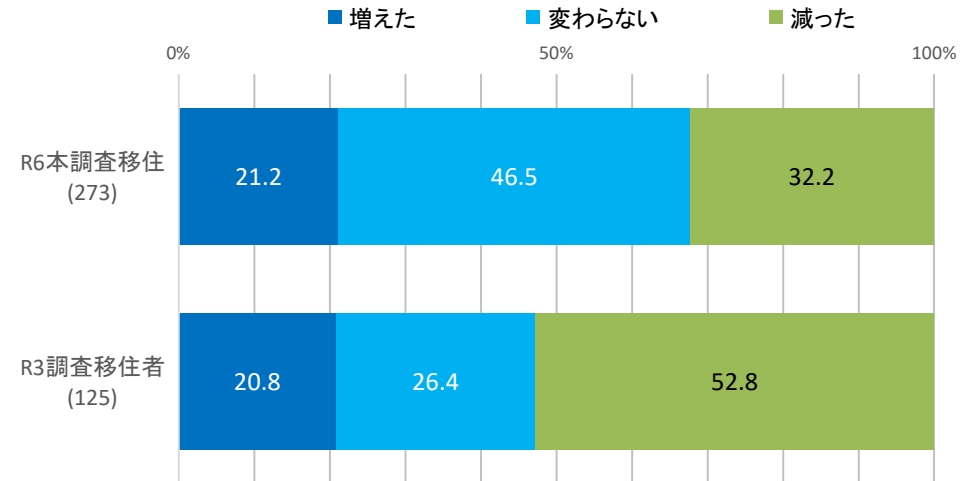
- 移住後の生活費の変化は、家計収入、家計支出、家計収支のいずれも「変わらない」が最も高くなっている。
- 家計収入と家計支出の内訳は、「家計収入：変わらない、家計支出：変わらない」の回答数が最も多く、「家計収入：減った、家計支出：減った」、「家計収入：変わらない、家計支出：減った」の順で回答数が多くなっている。

Q20 移住後の生活費の変化【移住者】

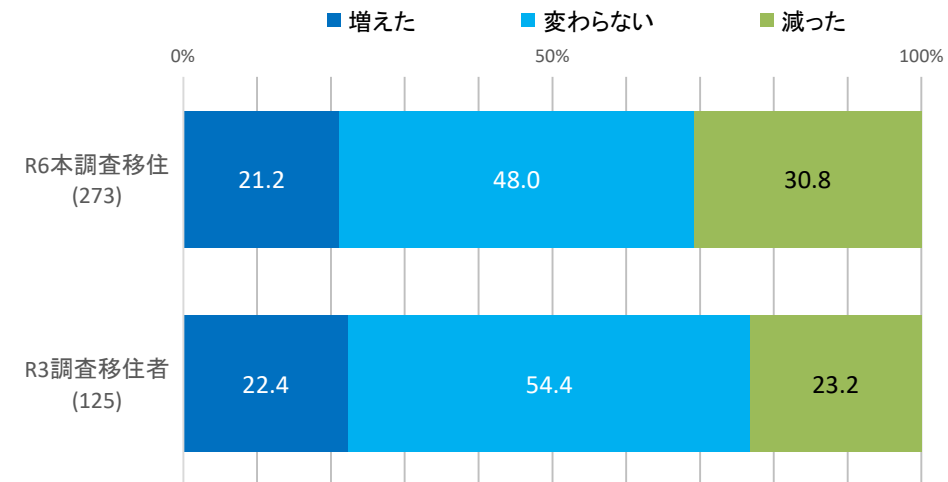
<Q20_1 家計収入>



<Q20_2 家計支出>



<Q20_3 家計収支>



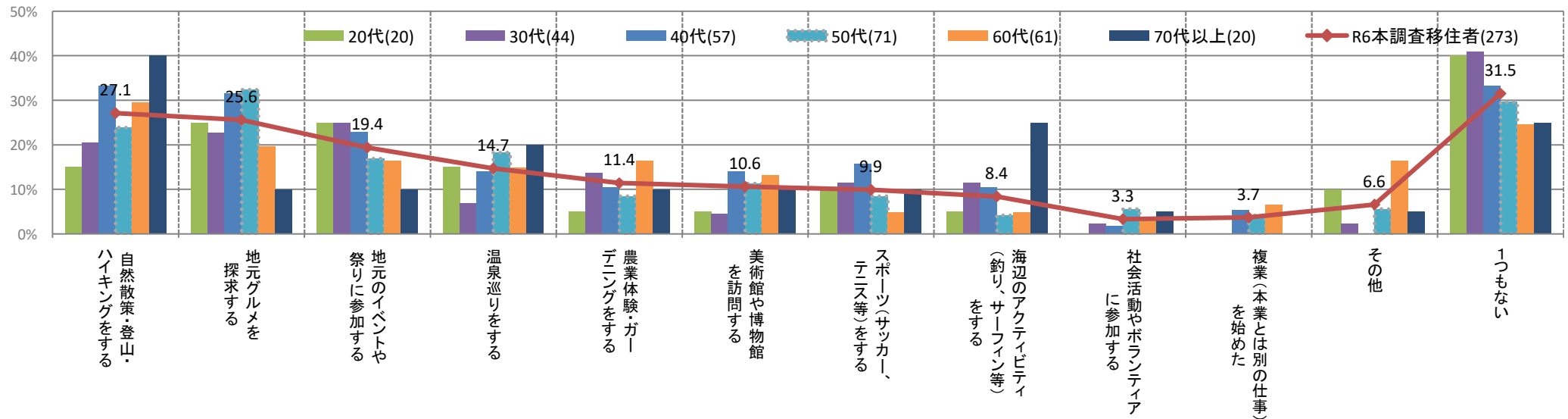
<Q20> 家計収支の内訳

(単位：人)

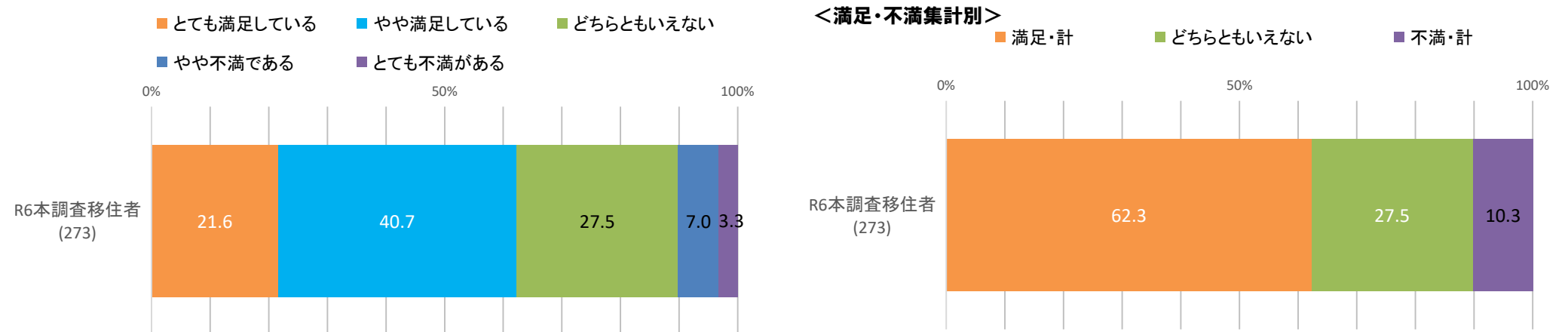
		家計支出			
家計収支		全体	増えた	変わらない	減った
	全体	273	58	127	88
	増えた	33	22	5	6
	変わらない	144	16	103	25
	減った	96	20	19	57

- 静岡県へ移住後の余暇時間の使い方は、「自然散策・登山・ハイキングをする」27.1%、「地元グルメを探索する」25.6%、「地元のイベントや祭りに参加する」19.4%が上位となっている。
- 静岡県へ移住後の満足度は、「とても満足している」と「やや満足している」を合計した、「満足・計」が62.3%となっている。一方、「やや不満である」と「とても不満がある」を合計した、「不満・計」は10.3%となっている。

Q21 静岡県へ移住後の余暇時間の使い方【移住者】※複数回答可



Q22 静岡県へ移住後の満足度【移住者】



Q23 よかったこと・イメージ以上だったこと【移住者】※抜粋

【20代】

- ・移住元になく店がたくさんあること
- ・自然豊かで観光地が多いので楽しい
- ・田舎すぎずちょうどいい
- ・子育てがしやすい
- ・交通の便の良さ

【30代】

- ・海や山など自然環境が良い
- ・生活しやすい
- ・気候が穏やか
- ・静岡の人の穏やかな人情が良く、ストレスフリー

【40代】

- ・買い物便利
- ・ご飯が美味しい
- ・人が皆優しい
- ・水が美味しい
- ・東京にはなかった地域のつながりがある
- ・毎日温泉に入れて海が見える
- ・富士山が毎日見られる
- ・日常の買い物など、いろいろなお店が行きやすい距離にたくさんあり、新幹線通勤も負担なく出来ている上に、自然も感じられる

【50代】

- ・冬に降雪がないこと
- ・生活が安定し、心にゆとりができた
- ・気候がいい。関東よりも涼しく冬は暖かく住みやすい
- ・建物が低く空が広く見える。自然が豊かで交通量も少ない
- ・買い物の便が良く、飲食店も豊富
- ・毎日富士山を眺めることができること、気候がいいこと

【60代】

- ・毎日が観光気分で 散歩、ウォーキングしているだけでも楽しい
- ・首都圏の子供家族が頻繁に遊びに来てくれる
- ・毎日温泉に入れること
- ・新しい友人が出来たこと
- ・健康的な環境に住める
- ・コンパクトな街なので把握しやすい
- ・スーパーマーケットが近くにあり、安く便利に買い物出来ている

【70代以上】

- ・気持ちに余裕ができた
- ・人付き合いが濃くなった
- ・同級生が居て楽しい

Q24 困っていること・イメージと違ったこと【移住者】※抜粋

【20代】

- ・交通量が多くて少し危なかった
- ・人柄や土地柄が合わない
- ・車がないと極めて不便
- ・地震が怖い
- ・子育て支援が少ない

【30代】

- ・仕事のレベルは首都圏のほうが高かった
- ・鈍行で東京に行くのに3時間かかる
- ・物価はもっと安いと思ってたけど結構平均的
- ・交通が不便
- ・地震が怖い
- ・東京圏在住時は電車がたくさん通っていたが、静岡県は主にバスで少し不便

【40代】

- ・気候がそれほど穏やかではない
- ・車が無いと不便
- ・暑い
- ・アウトレットはあるが百貨店が無い
- ・静岡の人たちの運転がひどい
- ・公共交通機関が少ない
- ・子供に冷たい
- ・刺激が少ない

【50代】

- ・想像以上に田舎で公共交通機関は壊滅的状況
- ・沼津駅周辺のお店が少ない、元ショッピングモールの跡地に早くお店ができてほしい
- ・大型車が多く、道路からの音が深夜もうるさい
- ・車がないと買い物や医療機関の利用ができない
- ・公共交通機関の便が少ない
- ・食費やガス代が都市部より高額になる
- ・全く稼げない
- ・古い考えの方が多いのか、他県から来た人に冷たいと感じる

【60代】

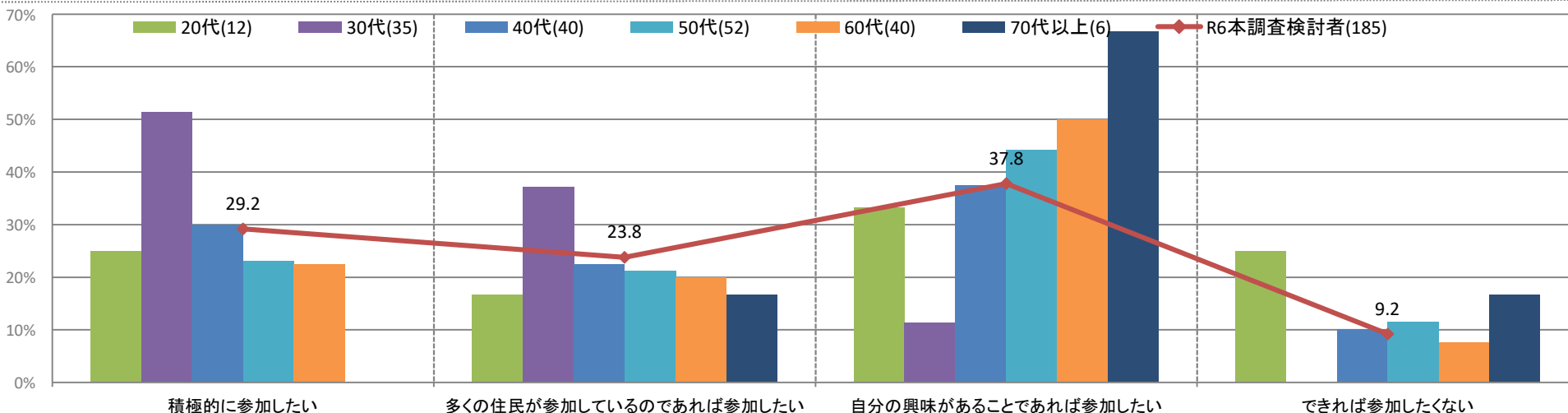
- ・交通の便の悪さ
- ・ガソリン代、水道代が異常に高い
- ・移住先で友人ができない
- ・医療機関に不安がある
- ・観光客が増加して道路が混雑
- ・他人の目を見る、排他的、すぐ仲間外れにして嫌がらせをするが本人たちに自覚がない

【70代以上】

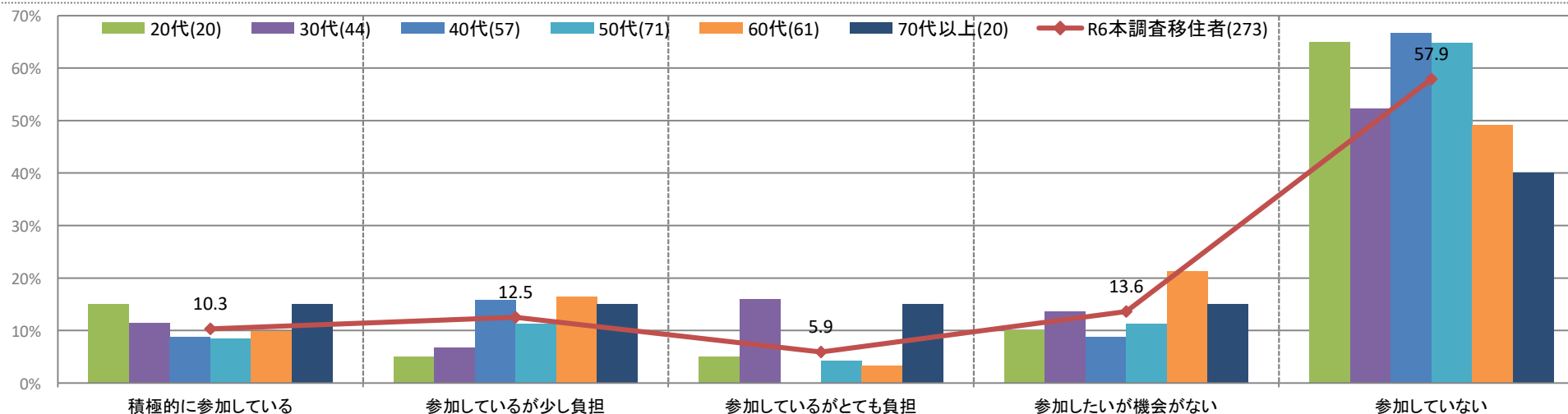
- ・田舎であり不便
- ・人が減っている
- ・公共交通機関の脆弱性
- ・免許返納後の移動手段確保
- ・政令指定都市なのに田舎

- 検討者、断念者の自治会やお祭りの運営などの地域活動への参加希望は、「自分の興味があることであれば参加したい」37.8%が最も高く、「できれば参加したくない」9.2%が最も低くなっている。
- 移住者の移住後の自治会やお祭りの運営などの地域活動への参加状況は、「参加していない」57.9%が最も高くなった。

Q25 自治会やお祭りの運営などの地域活動への参加希望【検討者】



Q26 移住後の自治会やお祭りの運営などの地域活動への参加状況【移住者】



Q27 定住のために必要な支援【移住者】※抜粋

【20代】

- ・住みやすい土地作り ・コンパクトシティの実現
- ・就労、住居、金銭的支援 ・移住者交流会
- ・地域ごとの暮らし方の情報提供
- ・結婚した若い世代への支援

【30代】

- ・収入を増やせる支援
- ・子育てや子ども医療補助の拡充 ・医療体制や教育体制の整備
- ・給食費の無償化などの子育て支援
- ・光熱費の軽減 ・移住費用の支援
- ・車社会のため、ガソリン代の補助や車のローンの補助
- ・自治会の参加費用の低減、強制入会をなくすこと ・自治会費の軽減
- ・防災に関する支援 ・地震、津波シェルターなどの設置
- ・仕事や住環境など、情報をスムーズに得られる支援
- ・知り合いをつくる仕組み
- ・移動手段などが増えると嬉しい ・電車などの交通整備
- ・snsで情報発信
- ・仲良くしなければならぬ風潮をなくしてほしい

【40代】

- ・交通機関の整備 ・豊富な商業施設 ・医療と地域交通
- ・東海地震や富士山噴火などへの災害対策
- ・住宅補助 ・戸建て世帯への新築祝い金 ・空き家斡旋、仕事の紹介
- ・就職支援 ・東京レベルの賃金がもらえる就職先 ・給与の高い仕事
- ・仕事と教育環境 ・子育て支援、子どもを育てやすい環境 ・給食無償化
- ・ワーママが安定して子供を保育施設に預けられる環境
- ・安定した収入源 ・経済的な支援 ・金銭的な支援 ・生活支援
- ・移住者コミュニティ ・静岡県の良いところの情報発信(アピール)
- ・自治会(町内会)をなくすこと
- ・子連れで遊べる場所が、もっと増えてほしい
- ・相談窓口

【50代】

- ・公共施設の充実 ・公共交通の整備、充実 ・ネット環境の整備
- ・住宅関連支援 ・就労関連支援 ・医療介護福祉支援 ・福祉、介護の充実
- ・住宅補助金、家賃補助 ・引越後の生活支援融資
- ・定職支援、就職支援 ・給与、賃金のアップ ・就職の斡旋 ・通勤補助
- ・年齢層ごとに共有できたり時間を費やすことのできる場 ・移住者が気軽に話せる場所
- ・人脈の構築、友達作り、仲間づくり ・コミュニティ参加に取り込むための中間的な橋渡し役
- ・自治体イベント等の機会の増加 ・祭り団体への参加サポート ・地域性の紹介
- ・学校の子供育成方針が見える化 ・地域情報(土地特有な行事や風習)などの情報提供
- ・仕事が東京のままなので、テレワーク支援金制度
- ・就業サポートやお困り相談など移住数年間は相談できる窓口
- ・転職先と転居先をセットに斡旋してくれる相談場所を大々的に宣伝する機関

【60代】

- ・公共交通機関の充実 ・移動手段の確保 ・住みやすい街 車がなくても暮らしやすい街
- ・医療施設の充実 ・医療費の助成制度の拡充 ・子育て支援 ・運動施設の充実
- ・地震対策費補助金 ・住宅斡旋事業 ・不動産の売り物件が少ない
- ・就労支援 ・仕事の斡旋、紹介 ・安定した仕事 賃金の底上げ
- ・金銭的援助 ・収入元の確保 ・老後生活を安定して過ごせること
- ・気軽に参加できるコミュニティ ・気軽に住んでいる人の話を聞ける場
- ・地域に根付いた情報発信、行政の立場から地域住民と馴染める機会の提供
- ・移住後の生活相談、気軽に相談できる窓口 ・困り事など気軽に相談出来るシステム
- ・利用できる諸制度をまとめた冊子 ・過疎化に対する行政策の立案と実行

【70代以上】

- ・高齢者への支援
- ・医療機関の充実
- ・住宅取得のための情報提供 ・住宅費用の補助
- ・地域情報や移住支援制度の積極的な情報発信
- ・パブリックな場所、無料で魅力ある場所(屋内、屋外)の充実